令和３年度第１回出雲市障がい者施策推進協議会

資　料　集

資料１	令和２年度障がい福祉サービス等状況報告	(P.　1～P.10)
資料２	令和２年度サービス調整会議状況報告	(P.11～P.12)
資料３	令和２年度障がい者虐待防止センター状況報告	(P.13～P.14)
資料４	令和２年度障がい者差別相談センター等状況報告	(P.15)
資料５	令和２年度手話普及の取組状況報告	(P.16)
資料６	令和２年度生活保護精神障がい者退院支援事業状況報告	(P.17)
資料７	令和２年度指定特定相談支援事業者等指導結果	(P.18)
資料８	令和２年度新型コロナウイルス感染症対策関連事業報告	(P.19～P.21)
資料９	令和２年度各専門部会等の活動状況及び令和３年度事業計画	(P.22～P.49)
資料10	出雲市地域生活支援拠点「ささえ愛サポート」実施状況	(P.50)

令和３年(2021)７月７日

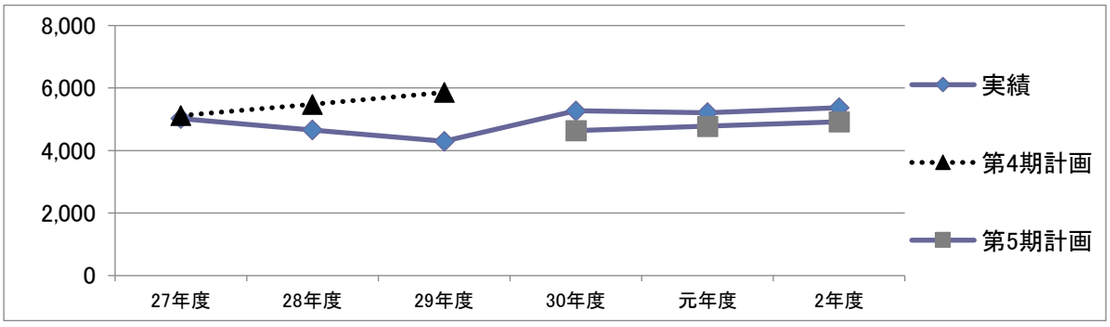
出雲市健康福祉部福祉推進課

【資料1】

令和2年度障がい福祉サービス等状況報告

単位：時間/月

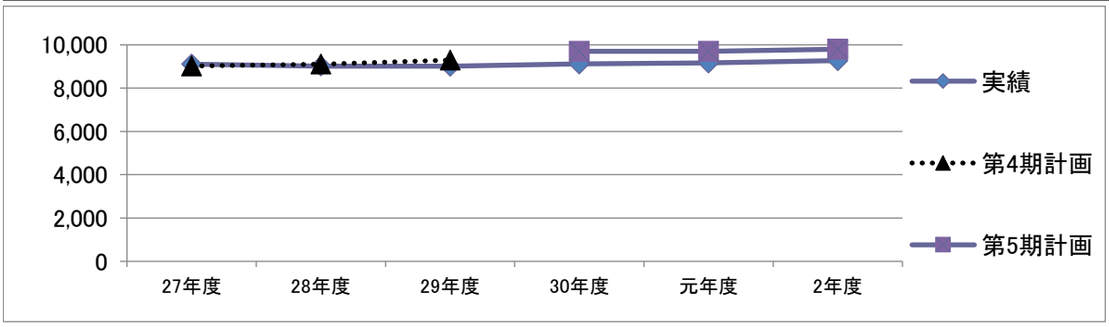
居宅介護等	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	5,119	5,477	5,860	4,638	4,777	4,921
実績	5,023	4,658	4,298	5,269	5,215	5,371
対前年伸び率	107%	93%	92%	123%	99%	103%
年間利用者数	339	357	347	352	357	364



利用者及び介護者の高齢化により、居宅介護サービスが必要な方が増えています。
第5期計画中は、おおむね横ばいでしたが、計画に沿った実績となりました。

単位：人日/月

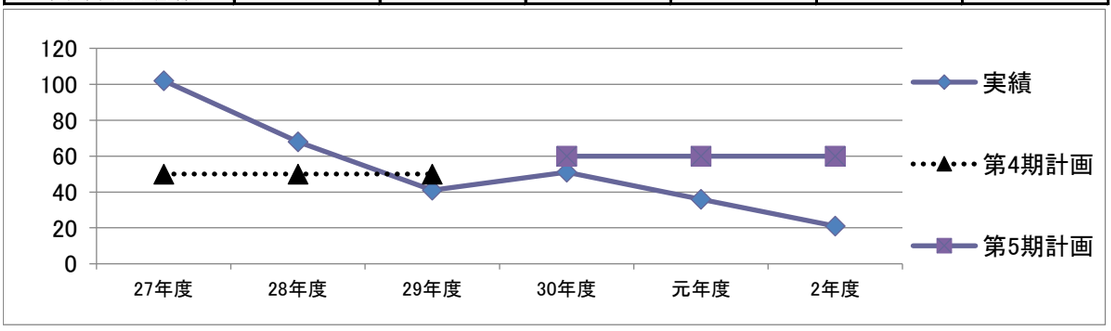
生活介護	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	9,023	9,113	9,295	9,702	9,702	9,799
実績	9,111	9,020	9,015	9,116	9,163	9,274
対前年伸び率	104%	99%	100%	101%	101%	101%
年間利用者数	531	515	522	522	520	528



新規の施設入所が少ないことに伴い、計画を下回る実績です。
第5期計画期間中の実績は、第4期計画に引き続き横ばいでした。

単位：人日/月

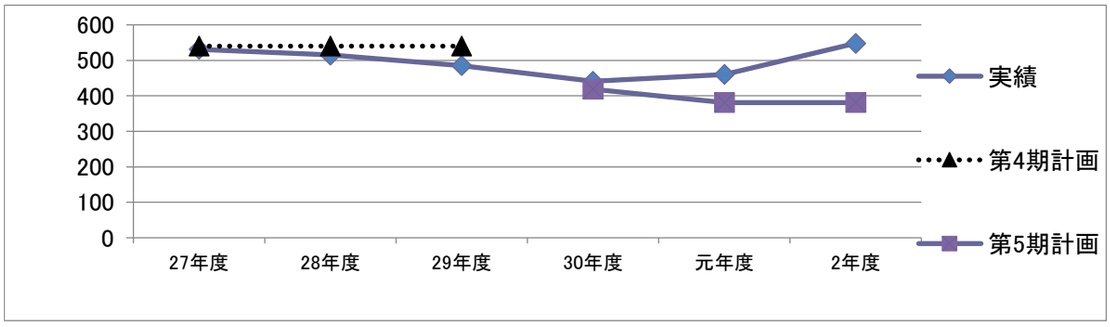
自立訓練（機能）	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	50	50	50	60	60	60
実績	102	68	41	51	36	21
対前年伸び率	200%	66%	60%	124%	71%	58%
年間利用者数	7	10	9	10	8	7



利用者数が減少し、実績が令和元年度と同程度減少しました。
第5期計画期間中は、新規利用者が少なく、計画値を下回りました。

単位：人日/月

自立訓練（生活）	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	540	540	540	418	381	381
実績	531	515	485	441	460	548
対前年伸び率	110%	97%	94%	91%	104%	119%
年間利用者数	46	43	46	56	51	57

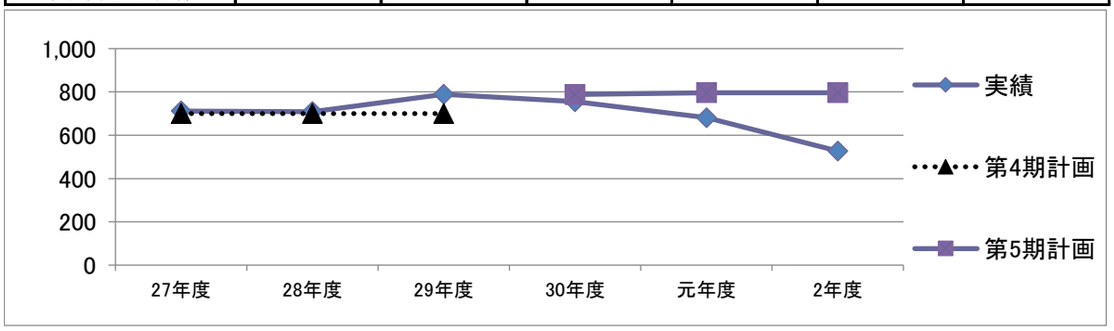


令和2年度中は、利用者数・利用日数ともに増加し、実績が増加しました。

第5期計画期間中は横ばいを見込んでいたため、計画を大きく上回る結果となりました。

単位：人日/月

就労移行支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	700	700	700	788	796	796
実績	712	709	789	755	681	527
対前年伸び率	104%	100%	111%	96%	90%	77%
年間利用者数	80	87	93	86	77	67

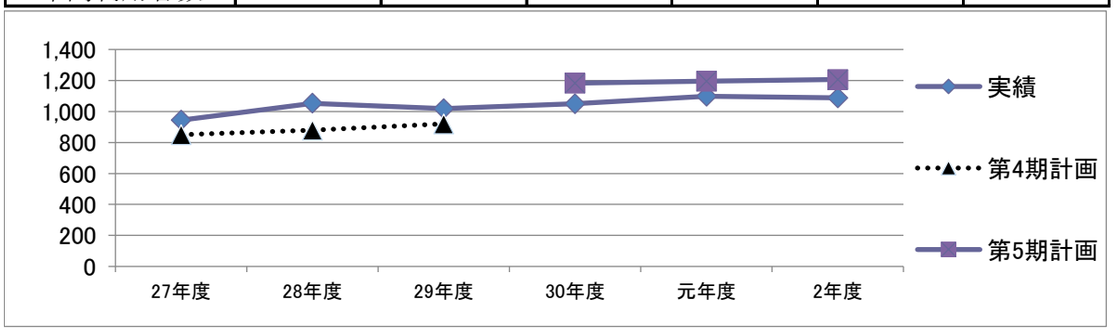


令和2年度中は、利用者数・利用日数ともに減少し、実績が減少しました。

第5期計画期間中は横ばいを見込んでいたため、計画を大きく下回る結果となりました。

単位：人日/月

就労継続支援Ａ型	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	850	880	920	1,183	1,194	1,206
実績	944	1,053	1,019	1,049	1,098	1,087
対前年伸び率	114%	112%	97%	103%	105%	99%
年間利用者数	56	66	62	62	71	67

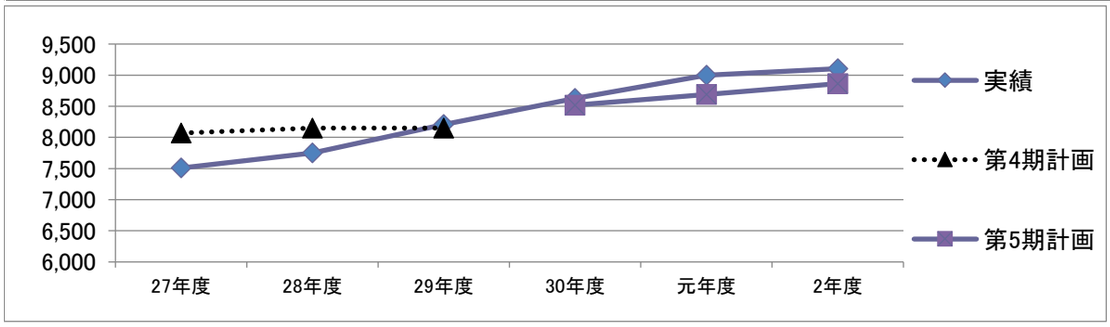


令和2年度及び第5期計画期間中ともに、ほぼ計画通りの実績となりました。

第5期計画期間中は、計画を下回りました。

単位：人日/月

就労継続支援Ｂ型	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	8,070	8,150	8,150	8,519	8,690	8,863
実績	7,509	7,752	8,206	8,627	8,999	9,104
対前年伸び率	101%	103%	106%	105%	104%	101%
年間利用者数	533	548	579	612	639	672

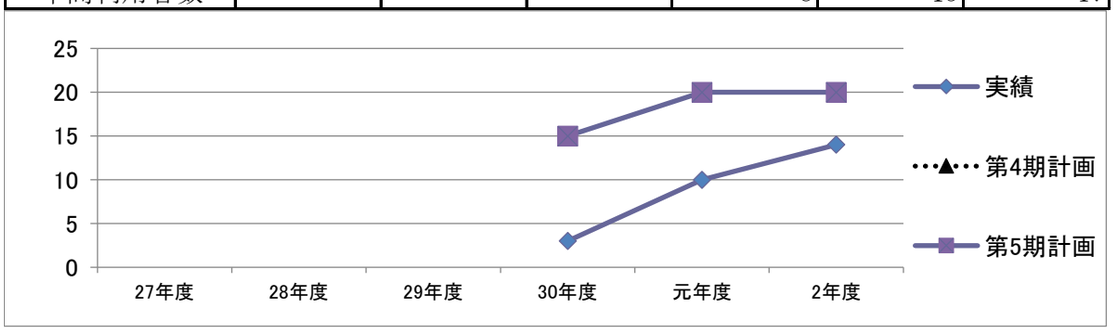


令和元年度と同様、利用者が増えており、計画を上回る実績です。

継続的に微増傾向で、第5期計画中は見込みどおり増加したと言えます。

単位：人/月

就労定着支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	－	－	－	15	20	20
実績	－	－	－	3	10	14
対前年伸び率	－	－	－	－	333%	140%
年間利用者数	－	－	－	8	15	17

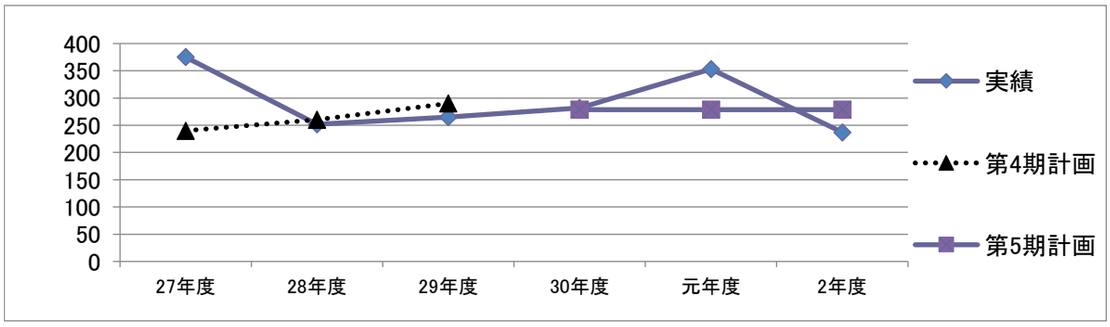


平成30年度から始まったサービスですが、徐々に浸透し、実績が増加しています。

第5期計画の初年度実績が計画より低かったとはいえ、計画達成に向けて順調に推移しています。

単位：人日/月

短期入所	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	240	260	290	279	279	279
実績	375	252	265	282	353	237
対前年伸び率	102%	67%	105%	106%	125%	67%
年間利用者数	133	123	125	135	136	90



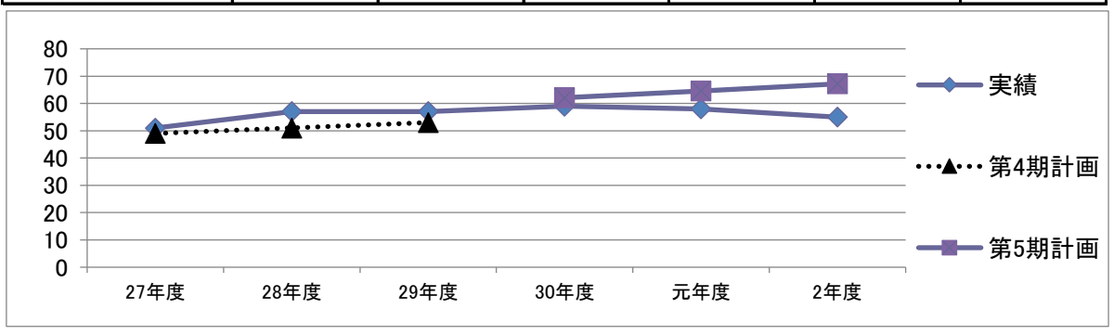
令和2年度は、利用者数・利用日数ともに6割程度に減少した結果、実績が計画を下回りました。

第5期計画期間中に大きく増減しました。

,

単位：人/月

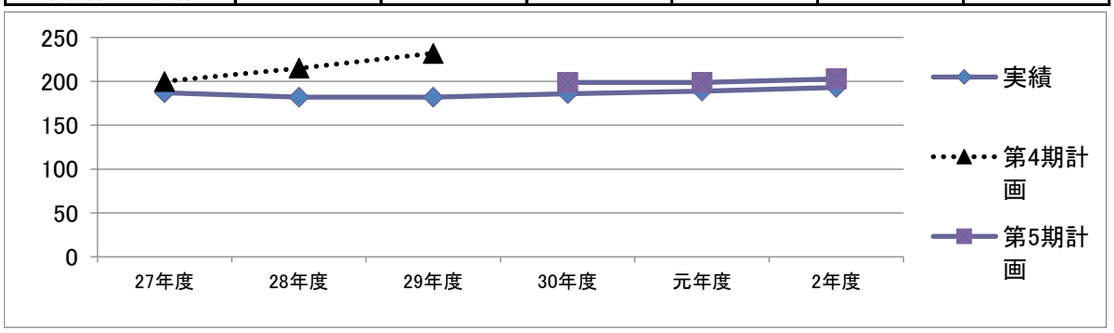
療養介護	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	49	51	53	62	65	67
実績	51	57	57	59	58	55
対前年伸び率	106%	112%	100%	104%	98%	95%
年間利用者数	56	58	57	59	61	58



令和2年度及び第5期計画期間中ともに、ほぼ計画通りの実績となりました。

単位：人/月

共同生活援助	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	200	215	232	199	199	203
実績	187	182	182	186	189	193
対前年伸び率	101%	97%	100%	102%	102%	102%
年間利用者数	198	202	196	196	199	208

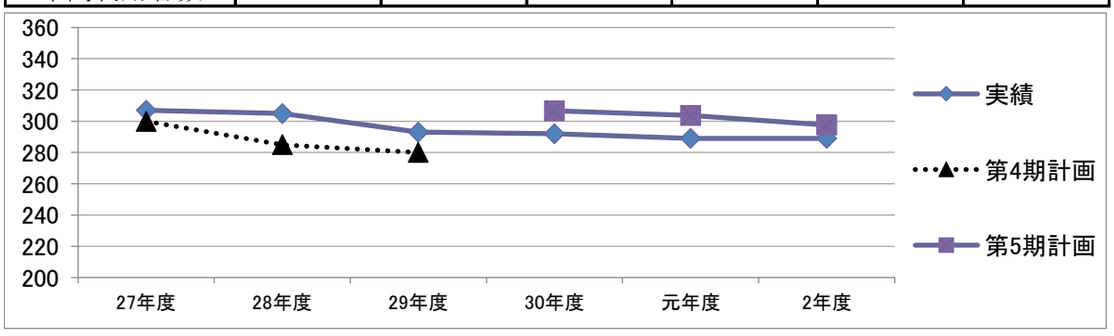


ほぼ計画に沿った実績となりました。

第5期計画期間中は見込みどおり横ばいでしたが、計画を下回りました。

単位：人/月

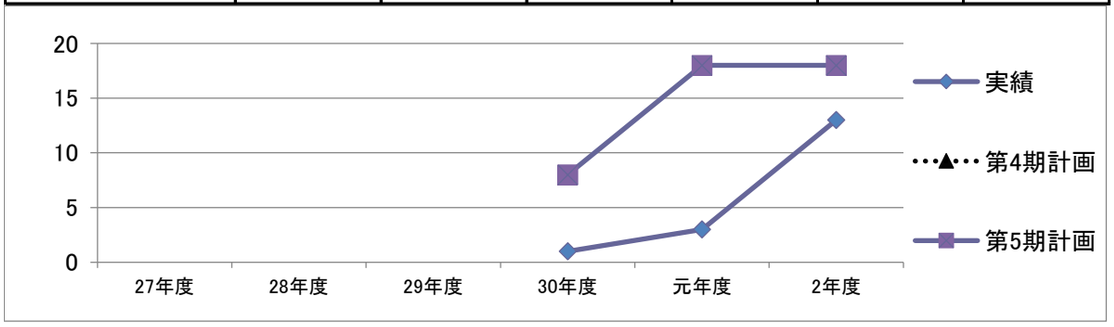
施設入所支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	300	285	280	307	304	298
実績	307	305	293	292	289	289
対前年伸び率	99%	99%	96%	100%	99%	100%
年間利用者数	324	317	302	303	300	296



令和2年度及び第5期計画期間中ともに、ほぼ計画通りの実績となりました。

単位：人/月

自立生活援助	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	－	－	－	8	18	18
実績	－	－	－	1	3	13
対前年伸び率	－	－	－	－	300%	433%
年間利用者数	－	－	－	3	3	19

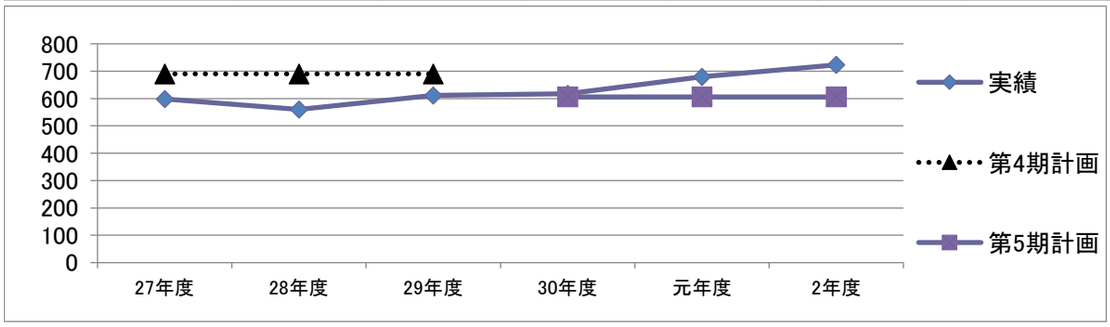


平成30年度から始まったサービスですが、計画達成に向けて順調に推移しています。

第5期計画の初年度実績が計画より低かったとはいえ、期間中の実績は増加しました。

単位：人/月

計画相談支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	690	690	690	606	606	606
実績	598	560	611	617	679	723
対前年伸び率	120%	94%	109%	101%	110%	106%
年間利用者数	1, 388	1, 401	1, 466	1, 487	1, 432	1, 575

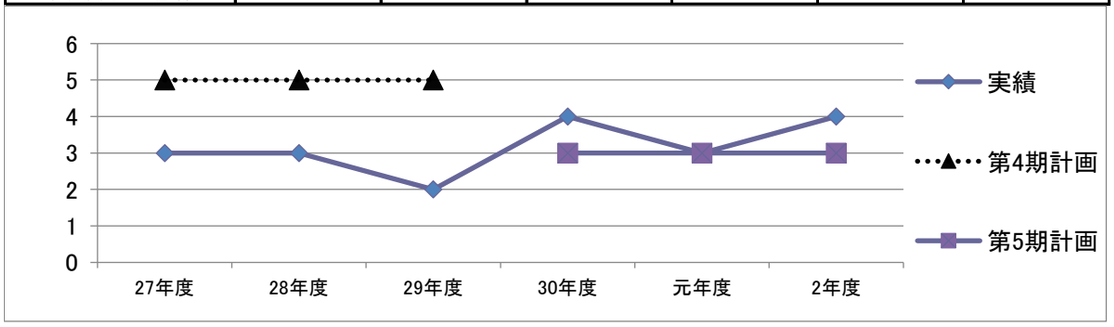


平成30年度の報酬改定により計画相談支援サービスが拡充され、計画を上回る実績です。

第5期計画の見込は横ばいでしたが、年々増加傾向にあります。

単位：人/月

地域移行支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	5	5	5	3	3	3
実績	3	3	2	4	3	4
対前年伸び率	150%	100%	67%	200%	75%	133%
年間利用者数	9	10	11	8	10	12

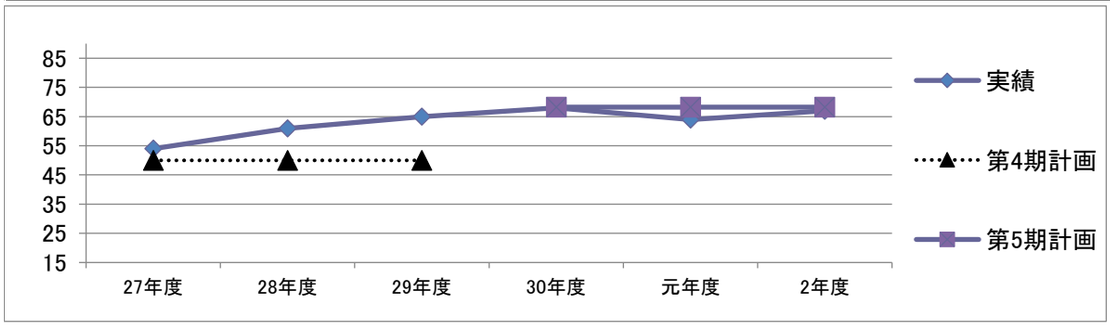


ほぼ計画に沿った実績となりました。

年間利用者の総数が少ないため、第5期計画期間中も横ばいでした。

単位：人/月

地域定着支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	50	50	50	68	68	68
実績	54	61	65	68	64	67
対前年伸び率	104%	113%	107%	105%	94%	105%
年間利用者数	65	66	74	88	71	76

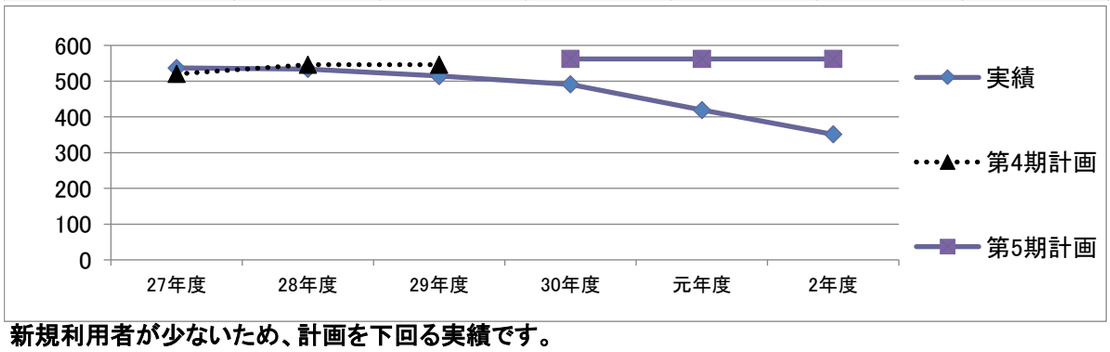


ほぼ計画に沿った実績となりました。

令和元年度に減少に転じましたが、第5期計画期間中はおおむね計画どおりと言えます。

単位：人日/月

児童発達支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	520	546	546	562	562	562
実績	537	534	514	491	419	351
対前年伸び率	97%	99%	96%	96%	85%	84%
年間利用者数	111	117	126	124	120	105

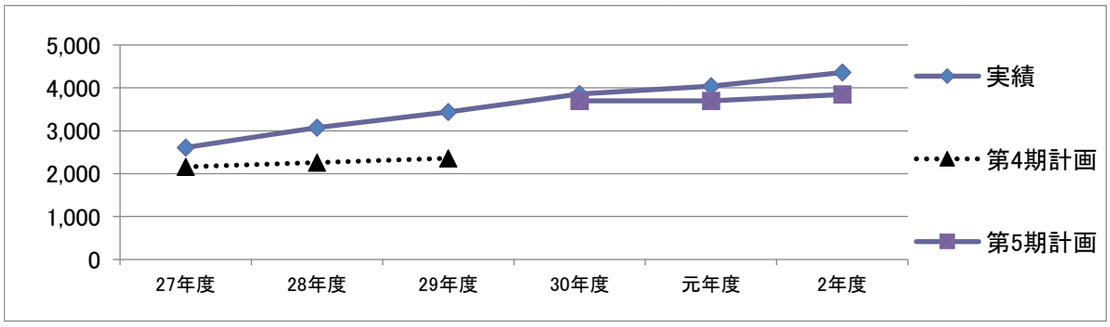


新規利用者が少ないため、計画を下回る実績です。

サービスの対象となる期間が限定的であることもあり、第5期計画期間中は減少が続きました。

単位：人日/月

放課後等ディサービス	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	2,160	2,260	2,360	3,698	3,698	3,846
実績	2,611	3,074	3,438	3,855	4,040	4,359
対前年伸び率	121%	118%	112%	112%	105%	108%
年間利用者数	256	275	302	340	374	413

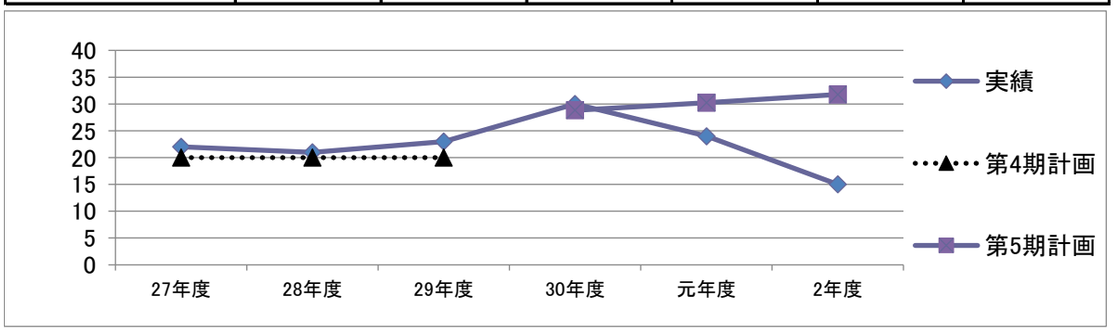


ほぼ計画どおりの実績となりました。

第４期・第5期計画期間ともに、利用実績の増加が続いてます。

単位：人日/月

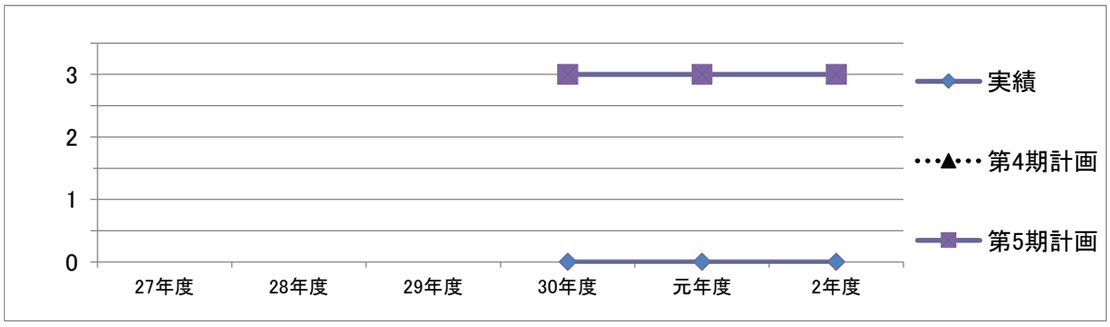
保育所等訪問支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	20	20	20	29	30	32
実績	22	21	23	30	24	15
対前年伸び率	116%	95%	110%	130%	80%	63%
年間利用者数	22	21	23	30	24	15



新規利用者が少ないため、実績が計画を下回っています。第5期計画期間中は減少が続きました。

単位：人日/月

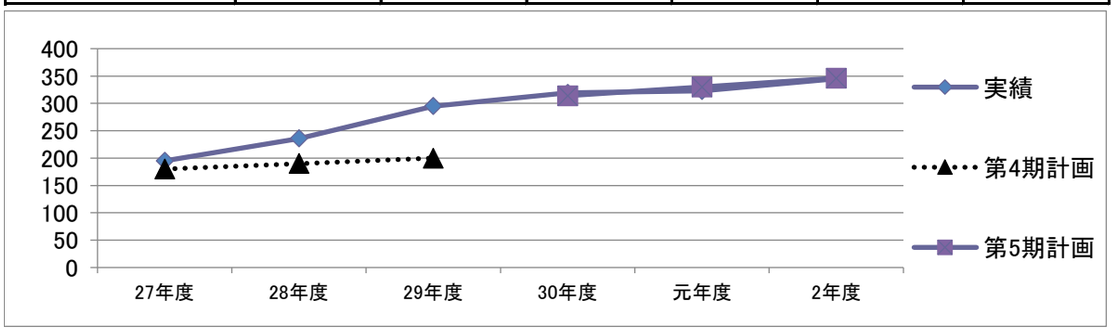
居宅訪問型児童発達支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	－	－	－	3	3	3
実績	－	－	－	0	0	0
対前年伸び率	－	－	－	－	－	－
年間利用者数	－	－	－	0	0	0



平成30年度に新設されたサービスで、市内にサービス提供事業所がないため、利用実績はありませんでした。

単位：人/月

障がい児相談支援	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	180	190	200	314	330	346
実績	195	236	295	319	323	345
対前年伸び率	105%	121%	125%	108%	101%	107%
年間利用者数	359	396	422	462	467	510



ほぼ計画通りの実績となりました。第5期計画期間中、児童のサービス利用の増加に伴い実績も増加しています。

地域生活支援事業　計画数値・実績

単位：人/年・団体／年

自発的活動支援事業	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	1	2	2	2	2	2
実績	1	1	1	1	1	1
対前年伸び率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
年間利用者数	27	24	25	46	30	18

新型コロナの影響もあり、1件あたりの利用者は少なかったが、ほぼ計画に沿った実績となりました。
第5期は同じ団体の利用に留まったため、他団体の利用促進のために、今後周知を図る必要があります。

単位：箇所／年

相談支援事業	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	－	－	－	9	9	9
実績	9	9	9	9	9	9
対前年伸び率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

第5期計画期間中も、委託相談支援事業所に変更はなく、計画通りの実績となりました。

○成年後見制度利用支援事業　　単位：件／年・人/年

（市長申立て）	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	2	2	2	3	3	3
実績	2	3	1	4	3	3
対前年伸び率	200%	150%	33%	400%	75%	100%
（報酬助成）						
計画値	4	4	4	4	4	4
実績	3	3	7	9	8	5
対前年伸び率	100%	100%	233%	129%	89%	63%

市長申立てはほぼ計画に沿った実績でした。
報酬助成は前年より減少しましたが、第5期計画期間においては、助成対象者の増加により計画値を上回る実績となりました。

○意思疎通支援事業・手話奉仕員養成事業　　単位：人/年

手話通訳等登録者数	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	140	140	140	150	150	150
実績	137	136	149	148	164	155
対前年伸び率	98%	99%	110%	99%	111%	95%
派遣事業実利用者数						
計画値	45	45	45	50	50	50
実績	41	42	42	44	41	38
対前年伸び率	98%	102%	100%	105%	93%	93%
手話奉仕員新規登録者数						
計画値	15	－	15	－	20	－
実績	9	－	12	－	16	－
対前年伸び率	60%	－	133%	－	133%	－

R2について、手話通訳等登録者数は、手話奉仕員の転出等で減少しました。実利用者数は対象者の死亡等で減少しました。手話奉仕員新規登録者数は、養成講座1年目のため修了者はいません。
第5期については、平成29年9月に、「出雲市手話の普及の推進に関する条例」を施行したことにより、平成30年度から手話の普及に向けた様々な取組を行っていますが、意思疎通支援者の増加にすぐに結びつくものではなく、引き続き取組を継続していく必要があります。

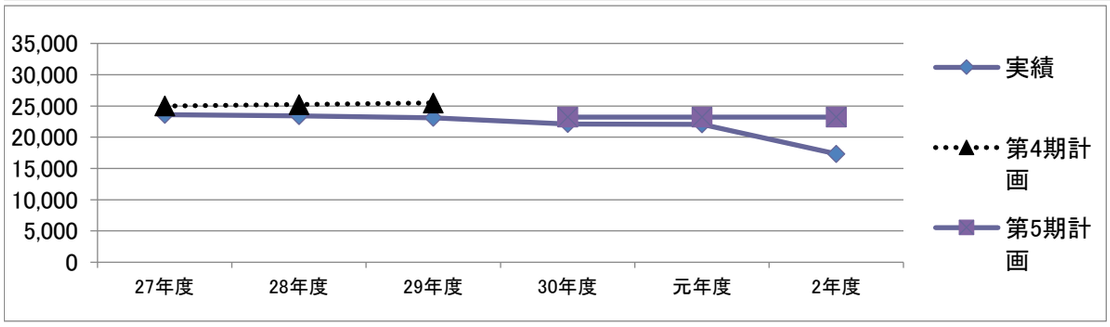
単位:件／年

日常生活用具給付事業	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	812	837	855	860	866	872
実績	800	775	832	875	836	875
対前年伸び率	99%	97%	107%	105%	96%	105%
（内訳）						
介護訓練支援用具	15	12	7	23	15	21
自立生活支援用具	27	12	22	29	23	41
在宅療養等支援用具	32	28	30	29	20	29
情報・意思疎通支援用具	72	53	88	96	80	77
排泄管理支援用具	652	667	683	693	695	703
住宅改修費	2	3	2	5	3	4
計	800	775	832	875	836	875

令和2年度及び第5期計画期間中ともに、ほぼ計画に沿った実績となりました。要望等により、品目の追加や見直しを行いました。

単位：時間/年

移動支援事業	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	24, 982	25, 231	25, 483	23, 214	23, 214	23, 214
実績	23, 603	23, 393	23, 117	22, 124	22, 054	17, 334
対前年伸び率	100%	99%	99%	96%	100%	79%
年間利用者数	422	423	425	401	402	369



令和2年度は実績が大きく減少しました。第5期計画期間中は、実績が計画値を下回りました。グループ利用の実績が減少しています。

地域活動支援センター事業

単位：人/年

障がい者生活介護型	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	8	8	8	5	5	5
実績	8	4	4	4	4	3
対前年伸び率	89%	50%	100%	100%	100%	75%

令和2年度及び第5期計画期間中ともに、ほぼ計画に沿った利用実績となりました。

精神障がい者通所型	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	－	－	－	210	210	210
実績	212	210	186	174	231	164
対前年伸び率	98%	99%	89%	94%	133%	71%

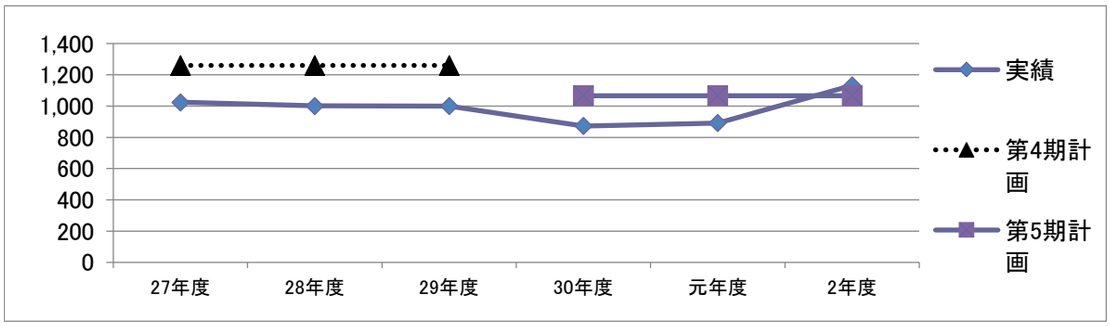
令和2年度及び第5期計画期間中ともに、ほぼ計画に沿った利用実績となりました。

障がい者共同作業所移行型	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	－	－	－	18	18	18
実績	18	18	14	14	12	12
対前年伸び率	120%	100%	78%	100%	86%	100%

令和2年度及び第5期計画期間中ともに、ほぼ計画に沿った利用実績となりました。

単位：回/年

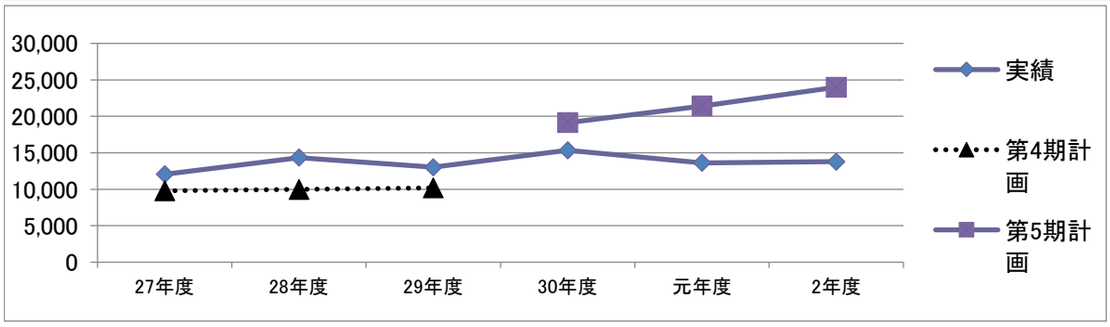
訪問入浴事業	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	1,260	1,260	1,260	1,066	1,066	1,066
実績	1,024	1,001	1,000	872	892	1,132
対前年伸び率	100%	98%	100%	87%	102%	127%
年間利用者数	16	16	15	14	15	19



令和2年度は利用人数が増加したことにより、実績が大きく増加しました。
第5期計画期間中ともに、ほぼ計画に沿った実績となりました。

単位：時間/年

日中一時支援事業	第4期計画			第5期計画		
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
計画値	9,792	9,987	10,186	19,130	21,426	23,997
実績	12,056	14,353	13,033	15,348	13,623	13,797
対前年伸び率	112%	119%	91%	118%	89%	101%
年間利用者数	225	241	247	253	266	247



第5期計画は、第4期計画と同様の伸びでの利用を見込みましたが、いずれの年も計画を下回る実績となりました。

出雲市障がい者就労施設等からの物品等の調達実績（出雲市発注分）

【調達目標】１２，０００千円　　【調達実績】１３，２８６千円

【概要】

区　分	調達目標金額（円）	調達実績金額（円）	品　目
印刷・情報処理	6,000,000	4,871,106	データ作成、編集作業など
その他役務	5,000,000	6,881,135	封入、清掃作業など
物品	1,000,000	1,534,500	食料、物品など
合計	12,000,000	13,286,741	

【達成率】１１０．７％

【資料２】

令和2年度　サービス調整会議状況報告

開催日	内　　容	参加者
4／28	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	―
5／26	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	―
6／23	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	―
7／20	1　行政説明 2　研修会 「ケアガイドライン」 相談支援事業所ハートピア出雲　　布野相談支援専門員 3　意見交換 「相談支援専門員として大切にしなければいけないこと」	45 名
8／24	地域課題の分類と意見交換 ・主な地域課題 ・地域課題に対する取組	45 名
9／23	1　令和2年度専門部会の中間活動報告 ・つながる専門部会 ・くらし専門部会 ・じりつ専門部会 ・こども専門部会 ・ささえる専門部会 2　令和3年度からの専門部会見直しに向けて 3　意見交換 「専門部会の見直し（案）についての質問・意見」	55 名
10／27	1　新型コロナウイルス感染防止に関するアンケート結果について 2　情報交換 「新型コロナウイルス感染症の対応について」	42 名
11／17	1　相談支援専門員としての災害への備え 相談支援事業所ふあっと　　足立相談支援専門員、布野相談支援専門員 2　意見交換 「災害時の相談支援専門員の役割について」	49 名

開催日	内　　容	参加者
12／22	1　災害時個別支援計画の作成に向けて 　相談支援事業所ハートピア出雲　　萬代相談支援専門員 2　意見交換 「災害用アセスメント票（案）について」 3　令和3年度からの専門部会の見直しについて	41 名
1／26	（令和2年度障がい者虐待防止研修会） 1　出雲市障がい者虐待防止センターの対応状況について 2　講演 「障害者虐待防止法の解説」 　　島根県障がい者虐待対応専門職チーム　弁護士　金山　孝治氏 3　相談支援専門員の体験談 4　意見交換 ・金山弁護士の講演や相談支援専門員の体験談を聞き、感じたこと ・今後、相談支援専門員としてどう対応するか	54 名
2／24	1　専門部会等の活動報告 ・つながる専門部会　　・ささえる専門部会 ・くらし専門部会　　・運営会議人材育成チーム ・じりつ専門部会　　・就労支援ネットワーク会議 ・こども専門部会 2　意見交換 「専門部会等の活動報告についての質問・意見」	53 名
3/23	1　出雲市地域生活支援拠点（ささえ愛サポート）について 2　令和3年度報酬改定について 3　意見交換 「ささえ愛サポートにおける相談支援専門員の役割」	50 名

令和2年度　運営会議状況報告

1　開催頻度：月1回　サービス調整会議　終了後

2　検討内容：

①　令和３年度専門部会の見直し

②　専門部会の活動状況報告

③　サービス調整会議の年間計画の作成

④　サービス調整会議の内容について

3　メンバー：委託相談支援事業所、専門部会部会長、市福祉推進課

司会は、機能強化相談支援事業所（ハートピア出雲・ふあっと）

【資料３】

令和2年度　出雲市障がい者虐待防止センター報告

1　虐待通報件数及び虐待認定件数の推移

通報件数は、年々増加傾向にあり、令和2年度は過去最多件数だった。

①虐待通報件数（虐待者区分別）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	合計
養護者	9　(0)	8　(0)	11　(0)	8　(0)	4　(0)	7　(0)	7　(0)	13　(0)	**16　(1)**	**83　(1)**
施設従事者	3　(0)	1　(0)	4　(0)	4　(0)	3　(0)	2　(0)	2　(0)	7　(0)	**9　(3)**	**35　(3)**
使用者	2　(0)	1　(0)	1　(0)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	1　(0)	0　(0)	**0　(0)**	**5　(0)**
その他	0　(0)	1　(0)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	**1　(0)**	**2　(0)**
合計	14　(0)	11　(0)	16　(0)	12　(0)	7　(0)	9　(0)	10　(0)	20　(0)	**26　(4)**	**125　(4)**

※（　）内は18歳未満の障がい児

障がい種別では、知的障がいが最も多い状況である。

②虐待通報件数（障がい別）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	合計
身体障がい	4　(0)	0　(0)	4　(0)	0　(0)	1　(0)	0　(0)	2　(0)	5　(0)	**4　(0)**	**20　(0)**
知的障がい	7　(0)	6　(0)	7　(1)	7　(0)	8　(0)	3　(0)	6　(0)	12　(0)	**14　(3)**	**70　(4)**
精神障がい	5　(0)	5　(0)	5　(0)	5　(0)	1　(0)	5　(0)	3　(0)	6　(0)	**9　(0)**	**44　(0)**
不明	0　(0)	0　(0)	0	0　(0)	0	1　(0)	0	1　(0)	**1　(1)**	**3　(1)**
合計	16　(0)	11　(0)	16　(1)	12　(0)	10　(0)	9　(0)	11　(0)	24　(0)	**28　(4)**	**137　(5)**

※（　）内は18歳未満の障がい児
※重複あり

令和2年度養護者からの虐待では、母、夫、義父、祖父母、きょうだいからの虐待を認定した。施設従事者からの虐待は、県外の入所施設での虐待認定を行った。

③虐待認定件数（虐待者区分別）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	合計
養護者	6　(0)	7　(0)	6　(0)	3　(0)	3　(0)	3　(0)	3　(0)	5　(0)	**5　(0)**	**41　(0)**
施設従事者	0　(0)	1　(0)	2　(1)	1　(0)	0　(0)	1　(0)	1　(0)	2　(0)	**1　(0)**	**9　(1)**
合計	6　(0)	8　(0)	8　(1)	4　(0)	3　(0)	4　(0)	4　(0)	7　(0)	**6　(0)**	**50　(1)**

※（　）内は18歳未満の障がい児

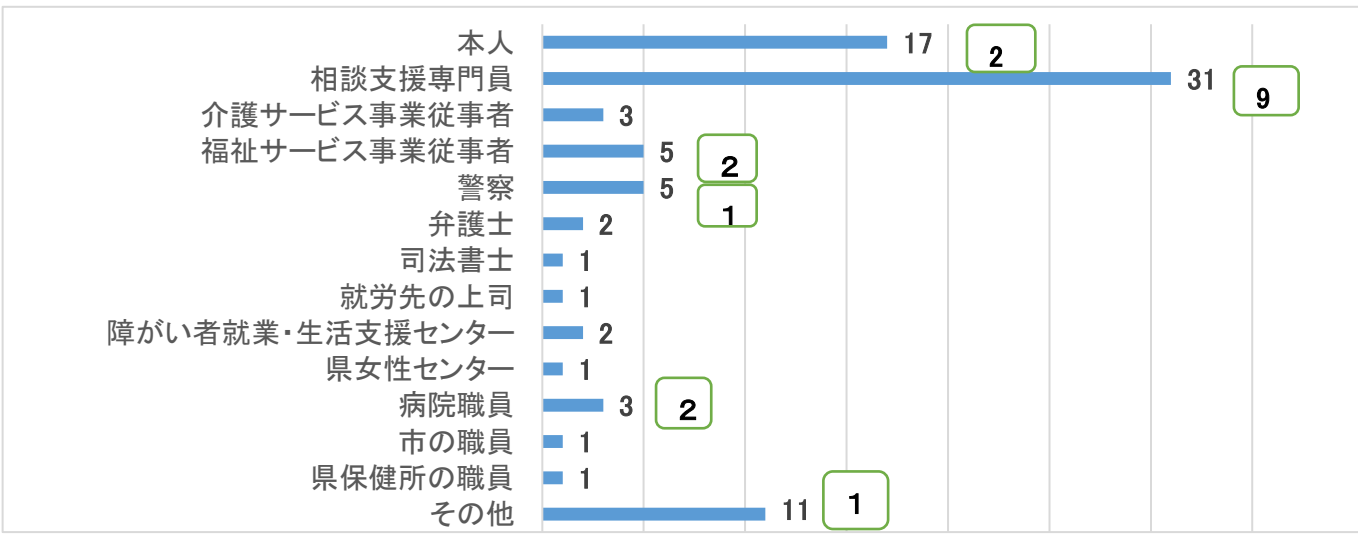
④虐待認定件数（虐待内容別：養護者）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	合計
性的虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**	**0　(0)**
放棄・放置（ネグレクト）	3　(0)	1　(0)	2　(0)	0	0	0	0	3	**0**	**9　(0)**
心理的虐待	1　(0)	2　(0)	6　(0)	0	0	1　(0)	1　(0)	3　(0)	**0　(0)**	**14　(0)**
身体的虐待	3　(0)	3　(0)	3　(0)	3　(0)	0	2　(0)	1　(0)	3　(0)	**5　(0)**	**23　(0)**
経済的虐待	4　(0)	6　(0)	1　(0)	0	3　(0)	2　(0)	1　(0)	1　(0)	**0　(0)**	**18　(0)**
合計	11　(0)	12　(0)	12　(0)	3　(0)	3　(0)	5　(0)	3　(0)	10　(0)	**5　(0)**	**64　(0)**

※（　）内は18歳未満の障がい児
※重複あり

2　通報届出者の状況

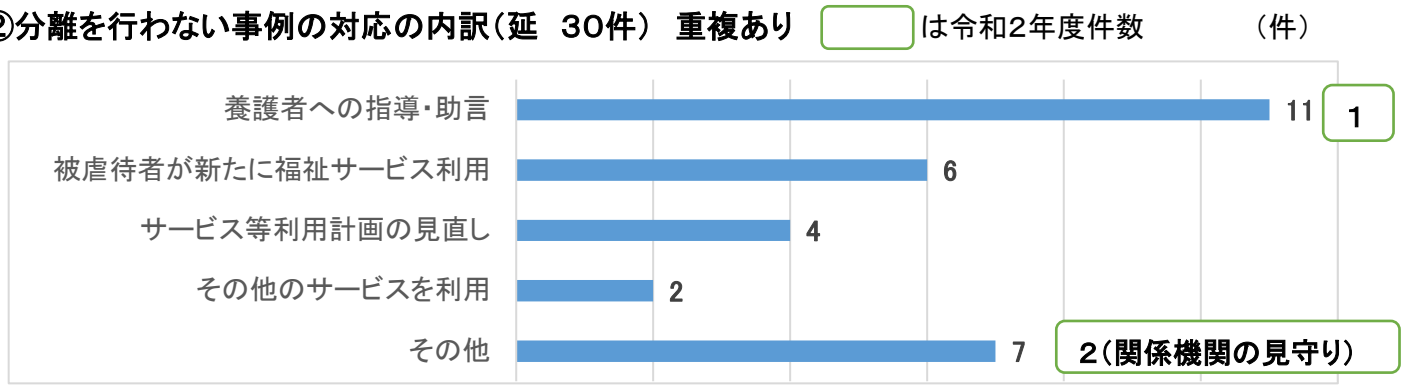
□は令和2年度人数　　（人）



３　対応状況

①分離を行った事例の対応の内訳（延　１７件）

②分離を行わない事例の対応の内訳（延　３０件）　重複あり



４　令和2年度研修及び啓発

①研修
令和2年度障がい者虐待防止研修会の実施（サービス調整会議内で実施）
実施日：令和3年1月26日
参加者：54人
内容：講演「障害者虐待防止法と通報」（講師：島根県障がい者虐待対応専門職チーム　弁護士　金山孝治氏）

②啓発
広報いずも9月号（8/20発行）に記事掲載を行った。
障がい者週間に合わせ、令和2年12月実施のイベントにおいてチラシを配布した。

【資料4】

令和2年度出雲市障がい者差別相談センター等状況報告

1. 相談件数

年度	出雲市	不当な差別的取扱い	合理的配慮の不提供	その他	県全体
Ｈ２８	７件	４件	３件	０件	１４件
Ｈ２９	７件	２件	５件	０件	３０件
Ｈ３０	６件	３件	３件	０件	２５件
Ｒ元	６件	３件	０件	３件	２９件
Ｒ２	３件	１件	０件	２件	(現時点で未公表)

2. 啓発等の取組状況

年度	出前講座等	内容	啓発活動	内容
Ｈ２８	１１件 (323名)	地区社協、福祉事業所、指定管理者等	３件	ICV「市政のひろば」、障がい者週間、講演会
Ｈ２９	７件 (248名)	地区社協、福祉団体等	２件	障がい者週間、講演会
Ｈ３０	８件 (1,157名)	コミセン、市職員、地区社協等	２件	障がい者週間、出雲商工会議所専門部会
Ｒ元	８件 (155名)	民間企業、福祉団体等	１件	障がい者週間
Ｒ２	５件 (317名)	指定管理者、地区民児協、学校	１件	障がい者週間

3. ヘルプマークの交付実績(県内の状況)

平成29年12月(開始)～令和3年3月末時点(島根県障がい福祉課提供・体裁一部加工)

交付窓口	H29年度計	H30年度計	R元年度計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R2年度計	総計
松江市	32	183	102	4	6	13	7	3	11	3	4	6	7	3	12	79	396
浜田市	19	101	14	1	3	1	2	2	1	1		3	1	2		17	151
出雲市	258	402	357	25	30	24	23	11	28	27	20	13	39	21	32	293	1,310
益田市	6	63	88	2	2	3	5	5	6	3	1	5	4	8	5	49	206
大田市	32	54	9	1	1	6		1			2			2	1	14	109
安来市	8	36	25			3		2				2		1	4	12	81
江津市	8	13	16								3			1	1	5	42
雲南市	16	22	13	27	7	27	2		18	13	1	6	1	2	18	122	173
町村計	26	48	26	5	3	1	2	1	1	1	7	5	1	2	0	29	129
島根県	182	70	43	1	0	0	1	0	4	1	0	25	2	0	3	37	332
視障協(団体)		49	12							1	1	1	1	1		5	66
総計	587	1,041	705	66	52	78	42	25	69	50	39	66	56	43	76	662	2,995

【資料5】

令和2年度手話普及の取組状況報告

出雲市手話の普及の推進に関する条例第6条第1項(施策の実施)

取組内容			R2新規事業	対象者・場所	R2実績	備　考
（1） 手話に触れる機会の拡大を図る施策						
	①	「出前講座」の実施		学校等（児童クラブ含む）	14件	H27：3件、H28：5件、H29：8件、H30：8件、R元:11件
				地域・事業所等	7件　136名	H30：21件（642名）、R元：12件（206名）
（2） 手話を学ぶ機会の確保を図る施策						
	①	「手話ミニ講座」の実施		一般市民 （初心者コース）	修了　50名	R2は、1講座2回で年6講座開催 修了者へ「手話サポーターバッチ」贈呈 H30.：61名、R元：23名
				一般市民 （レベルアップコース）	実施なし	R2は、実施なし R元：1講座2回で年1講座開催（2講座予定のところ、定員に満たなく1講座のみ）修了者へ「手話サポーターバッチ」贈呈
				親子（小学6年以下）	実施なし	R2は、実施なし R元：夏休みに2回開催（参加者へ「大好き手話」バッチ贈呈） H30：2回（80名）、R元：2回（95名）
	②	医療従事者のための手話入門講座		医療関係者	実施なし	R元：1講座（44名）
（3） 手話による情報発信及び情報取得の機会の拡大を図る施策						
	①	市政のひろば（ICV制作）に手話映像追加		一般市民	5回	R元～1回あたりの放映時間15分に短縮
	②	広報いずも　手話枠掲載		一般市民	12回	月1回掲載（おはよう、こんにちは、こんばんは、ありがとう、はじめまして、よろしくお願いします、わかりました、うれしい、あけましておめでとう、元気、気をつけて、お疲れさま）
	③	広報掲載の手話をユーチューブ動画配信		一般市民	12回	
	④	各種イベント等での手話通訳者配置		一般市民	9件 （うち市主催分4件）	H27：43件、H28：47件、H29：39件、H30：39件、R元：49件
	⑤	市長の定例記者会見に手話通訳者配置	●	一般市民	6回	R2.9月から毎月実施（別に、コロナ関連の記者会見で4回実施）
	⑥	市職員向け手話の動画発信	●	市職員	9回	R2.7月から毎月実施　（R2：窓口で使える手話）
（4） 手話による意思疎通支援の充実を図る施策						
	①	設置手話通訳者数		聴覚障がい者等	3名	H30年度から1名増（3名体制）
	②	緊急携帯電話		聴覚障がい者等	257件	H26から実施（R3.1月末登録者数：40名） H26:144件　H27:209件　H28::215件　H29：251件　H30：212件 R元：243件
	③	遠隔手話通訳サービス	●	聴覚障がい者等	25件	R2.11月から実施（R3.3月末登録者数：22名）
（5） 手話通訳者等の育成及び確保を図る施策						
	①	手話通訳者養成講習会を目指す学習会		手話奉仕員	5名	手話奉仕員から手話通訳者を目指す人のためのレベルアップ講座（12回実施）
	②	要約筆記啓発講座		一般市民	実施なし	「気軽に筆談セミナー」 H30：20名　R元：17名
	③	手話奉仕員養成講座(2年間) （厚生労働省養成カリキュラムによる）		一般市民	14名	R2年度は入門編（21回／年度 ）
	④	手話奉仕員フォローアップ研修 （厚生労働省養成カリキュラムによる）		手話奉仕員	年2回　延24名	
	⑤	要約筆記奉仕員フォローアップ研修 （厚生労働省「要約筆記者養成カリキュラム」に沿った講座）		要約筆記奉仕員	年1回　6名	
（6） その他聴覚障がい者の特性に応じた意思疎通支援						
	①	FAX119		聴覚障がい者等	34名	H24から実施 実績は累計登録者数
	②	NET119緊急通報システム		聴覚障がい者等	14名	R元.9月から実施 実績は累計登録者数

【資料６】

令和2年度 生活保護精神障がい者退院支援事業 状況報告

１．事業概要

当該事業は、精神障がいのため長期に渡り入院を余儀なくされており、生活保護を受給している方に対し、退院を支援する事業。生活保護を受給している方が社会に復帰し、退院後も自立生活を継続できるよう支援している。

また、生活保護費のうち全体の5割以上を医療扶助が占めており、長期入院患者が退院することで生活保護費の縮減にも寄与する。

国の補助により平成19年度から実施。

２．令和２年度 事業の状況

⑴生活保護受給者を対象とした地域移行支援の実施

＊精神科医療機関に長期入院中の対象者　8人（うち前年度からの継続8人）

＊退院に至ったケース　0人

＊状況：退院支援継続中　4人　　支援方法の検討中　1人

　　病状等により支援ができない　3人

【地域移行支援 対象者年齢別内訳】

年代	人数	状況
40～49歳	1人	退院支援継続中　1人
65歳以上 (うち75歳以上)	7人 (2人)	退院支援継続中　3人 支援方法の検討中　1人（75歳以上1人） 病状により支援できない　3人（75歳以上1人）

⑵生活保護受給者を対象とした地域定着支援の実施

＊対象者　18人（うち前年度からの継続　16人）

＊居住先：自宅（単身）15人、グループホーム2人、高齢者グループホーム1人

３．事業の廃止について

事業開始から14年を経過し福祉を取り巻く施策も変化してきている中で、障がい福祉サービスの活用等により退院支援が可能となったこと、生活保護受給者に対象を限定した支援策から広く一般に広げていく必要性があること等の理由により、本事業は令和2年度で廃止した。

今後は、障がい福祉サービス及び出雲市地域生活支援拠点「ささえ愛サポート」の活用により、必要な支援を行っていく。

【資料７】

令和2年度　指定特定相談支援事業者等実施指導結果

「出雲市指定特定相談支援事業者等指導及び監査要綱」に基づき、市内指定特定相談支援事業所の実地指導を実施した。複数の事業所に対し改善を求め、同年度中に改善状況報告書が提出され受理した。

なお、令和３年２月のサービス調整会議の際に、全事業所を対象に集団指導を実施した。

１．実地指導

（１）実施時期　　令和２年１０月～１１月

（２）対象事業所　９事業所

２．指導調書の作成

（１）対象事業所　市内全相談支援事業所（２９事業所）

（２）調書の内容　人員や運営に関する状況等

３．主な指摘事項（改善依頼事項）

- 運営規程や契約書、重要事項説明書に記載された根拠法を確認し、誤りや記載漏れがある場合は速やかに訂正すること
- 契約書、重要事項説明書、同意書に利用児童の氏名欄を設けること
- 法定代理受領通知書（給付費領収書）を作成し、速やかに交付すること
- 運営規程・重要事項説明書に、「虐待の防止のための措置に関する事項」が義務規定となっているか確認し、誤りがある場合は速やかに訂正すること
- 苦情等の受付窓口は、重要事項説明書と契約書の整合性を図ること。また、相談窓口の名称、連絡先を記載すること
- 見やすい場所に、運営規程の概要、基本相談支援及び計画相談支援または障がい児相談支援の実施状況、相談支援専門員の有する資格等を掲示すること

【資料８】

令和２年度 新型コロナウイルス感染症対策関連事業報告

Ⅰ 事業所対象事業

１．市内障がい福祉サービス提供事業所への通知

① 新型コロナウイルス感染症県内（市内）発生に伴う対応について（通知）
　日時：令和２年４月 10 日付け　メールにて周知
　送付先：市内障がい福祉サービス提供事業所

② 新型コロナウイルス感染症県内発生に伴う対応について（その２）（通知）
　日時：令和２年４月 16 日付け　メールにて周知
　送付先：市内障がい福祉サービス提供事業所

③ 新型コロナウイルス感染症発生に伴う障がい支援区分認定調査の臨時的な取扱いについて」
　日時：令和２年４月 10 日付け　メールにて周知
　送付先：市内相談支援事業所

④ 【事務連絡】緊急事態宣言後の障がい福祉サービス等事業所の対応について
　日時：令和２年４月 10 日付け　メールにて周知
　送付先：市内相談支援事業所

⑤ 新型コロナウイルス感染者の市内発生に伴う対応について（通知）
　日時：令和２年７月 15 日付け　メールにて周知
　送付先：市内障がい福祉サービス提供事業所

２．休業等に関する届出

令和２年度中に休業等に係る届出を行った事業所　16 事業所（34 件）

３．研修会

障がい福祉サービス提供事業所向け「新型コロナウイルス感染症対応研修」
　日　時：令和２年 11 月 20 日（金）14:00～16:00
　会　場：出雲弥生の森博物館
　対象者：市内居宅系・入所系サービス提供事業所職員（18 名参加）
　内　容：クラスター発生時の初動対応、ガウン着用実習等
　講　師：出雲保健所職員（臨床検査技師）

４．地域生活支援事業実施事業所の支援

「地域生活支援事業等受入体制強化事業」（12 月補正）
　事業概要：地域生活支援事業等の実施にあたり、事業者に対して新型コロナウイルス感染拡大防止及び衛生管理体制強化のためにかかる経費（需用費等）を一部補助し、当該事業の受け入れ体制の維持・強化を図る。
　対象法人：40 法人
　事業費　：8,600 千円
　経　過　：R2.12.17　　事業者へ事前周知
　　12.28　　事業者へ正式通知

R3. 1. 5～　申請受付開始
3.31　　申請〆切（交付決定 17 件、交付金額 3,749,010 円）

５．市内障がい福祉サービス提供事業所への衛生用品の配布

（１）事業所職員を対象にマスクを配布　※法人単位で配布

配布状況

	配布時期	対象法人数	配布法人数	配布枚数
1 回目	R2.3. 2～	72	42	30,150
2 回目	R2.4.13～	72	44	19,000

配布基準　1 回目：職員 1 人当たり 30 枚（2 枚/日×15 日分）
2 回目：職員 1 人当たり 15 枚（1 枚/日×15 日分）

	配布時期	配布対象法人数	配布枚数
3 回目（県）	R2.6.23	26	108,000
	R2.7.31	44（2 事業所 辞退）	208,100
	R3.3.4～3.17	12（新規 5、施設入所 7）	7,9000

（２）事業所を対象にストレッチポリ手袋を配布（県）

配布時期	対象法人数	対象事業所数	配布枚数
R3.3.4～	70	158	48,000

Ⅱ　障がい者向け支援事業

１．視覚・聴覚障がい者関連事業

（１）新型コロナの健康相談窓口設置情報周知（R2.3～4）
①声の広報発行利用者（51 人）　②点字広報発行利用者（13 人）
（２）手話通訳者の対応（マスク着用での通訳）通知（R2.3.19 出雲市聴覚障害者協会宛）
（３）手話通訳者養成講習会を目指す学習会【中止】（R2.4.10 委託先の社協へ通知）
（４）YouTube で聴覚障がい者向けに感染予防を手話で周知（R2.4.10）
（５）県内発生による一般相談ホームページ開設周知（R2.4）
①声の広報発行（51 人）　②点字広報発行（13 人）
（６）市長記者会見に手話通訳者を配置
（R2.4.16 、R2.4.25、R2.4.30、R2.7.15、9 月定例記者会見から毎回配置）
（７）6/1 広報いずも臨時号　①声の広報発行（51 人）②点字広報発行（13 人）
（８）手話の出前講座　R2.7 月から開始
（９）手話のミニ講座（初心者向け講座）　R2.9.4 から開始
（10）手話奉仕員養成講座、手話通訳者養成講習会を目指す学習会　R2.10.3 から開始
（11）遠隔手話通訳サービス事業（R2.11.1～ 運用）（6 月補正）
登録者数　22 人、実績件数　25 件 ※うち医療機関 8 件

２．出雲市在宅障がい者等相談支援事業　（6 月補正）

事業内容：相談支援事業所の相談員等が、新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じている在宅障がい者等に対し、安否確認等を実施
支援実績：1 人（3 か月間）

Ⅲ　会議等の変更

１．出雲市障がい者施策推進協議会サービス調整会議

R2.3 月～6 月中止、R2.7.20 再開

２．出雲市障がい者施策推進協議会 専門部会

R2.4 月～5 月中止、R2.6 月から再開

・つながる専門部会 6/25　・くらし専門部会　6/11　・じりつ専門部会 6/11

・こども専門部会　6/22　・ささえる専門部会 6/30

３．就労支援ネットワーク会議　R2.7.3 再開

４．運営会議　人材育成チーム　R2.6.17 再開、ツール検討チーム　R2.7.21 再開

５．障がい支援区分認定審査会

・R2.4.16 審査会から、特定の会場に集まらず書面での判定

・R2.7 月から通常どおり開催

６．障がい支援区分認定調査

・新規、変更…対面調査を実施せず、電話や関係者からの聞き取り調査

継続　　…障がい支援区分有効期間を 12 か月延長し、調査は行わない

・R2.7 月から通常どおり調査を実施

※ただし、施設側で面会不可の場合は、12 か月延長とする

Ⅳ　福祉推進課所管施設の対応

施設名	管理者	種別	市内発生時の方針 (R2.4.3時点)
湖陵福祉センター	特定非営利活動法人 IZUMO自立支援センター	指定管理	休館しない
多伎地域福祉センター	出雲市社会福祉協議会	指定管理	休館しない
平田福祉館	出雲市社会福祉協議会	指定管理	休館しない
ひらた健康福祉センター	社会福祉法人ひらた福祉会	指定管理	休館しない
蛇島福祉会館	蛇島福祉会館管理運営委員会	直営	休館しない

①R2.4.10付け通知にて感染予防対策について周知

施設の消毒に使用する消毒液を配布した。（R2.4.13～4.17）

②R2.5.15 各施設に物品配布

・抗ウイルス不織布入り布マスク（従業員１人１枚）

・ペーパータオル（１施設２００枚）

③R2.7.15、R2.12.7、R2.12.11 市内発生を受けて、各施設に注意喚起（メール）

④R2.8.11 「全国的な人の移動を伴うイベント等を実施する場合の県への事前相談について」周知（メール）

⑤R3.1.19 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う指定管理料の変更（前年比収入減少分の補填）

令和2年度　つながる専門部会　報告書

部会メンバー	部会長　：玉木（かのん） 副部会長：米山（太陽の里） メンバー：渡部・布野（ふあっと）、東（Reve）、岡本（さざなみ学園）、古川（出雲高齢者あんしん支援センター）、吉田（いんくるネット出雲）、西（出雲保健所）、今岡（平安堂）、江角（もくれん荒茅事業所）、三浦（ホームケアー島根） 事務局　：原・上谷（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	①介護保険とつながる：前年度同様、ケアマネと相談支援専門員がお互いに顔を合わせて相互理解を深め、連絡がとりやすく同じ目的に向かって協同できる環境作りをする。 ②地域とつながる：コミュニティセンターと連携を図りながら、地域住民に障がいのある人や相談員について知ってもらえるように働きかける。 ③医療とつながる：こども部会や精神分野との意見交換を行いながら、現状の課題の整理を行い、今後どういった活動が必要かを協議する。
活　動　状　況	■部会　計３回開催 （　開催日：6/25、9/11、12/18　） ①合同研修会はコロナウイルス感染症の影響で中止。障がい福祉サービスと介護保険サービスの対照表については、サービスの変更がないため修正なし。 ②10 月 4 日…神西コミセンで行われた岩坪掃除のボランティアとして、部会員 4 名、当事者 2 名が参加。川跡コミセンとの共同企画として予定していた、ハーバリウム教室、高松コミセンでの研修会は次年度に延期。 ③11 月 2 日…こども部会部会長、つながる部会 2 名で意見交換を実施。
成　　果	①、②に関しては、予定していた活動が実施できないことが多かったが、神西コミセンでの活動は広報紙にも部会の名前を含めて掲載され、地域住民の方に部会について知ってもらうことができた。 ※相談支援専門員の普及啓発チラシの作成 ③医療的ケア児においてはケースにより誰が主に動くかの違いはあるものの、現状必要な機関とつながることができている。一方で医療的ケアが必要な障がい者の課題についても整理が必要。また、精神障がい者における医療との連携に関しては、ワーキングチームに所属する部会員が意見交換。今後、地域包括ケアシステムの導入に向けて体制や人材育成など考えていく必要があることを確認。
課　　題 次年度への方向性	①研修の実施方法（参加人数や時期など）を見直し、合同研修会を実施できる方法を検討する。 ②コミセンと共同での企画の実施に向けて具体化していく。企画の内容についても再検討。相談支援専門員の普及啓発のチラシを各コミセンに掲示していただけるよう、部会として働きかける。 ③医療については、課題が広く、多機関、多職種でネットワークを形成する必要があるため、部会だけでは困難。ネットワーク会議にて検討する。

障がいのある方が安心して暮らせるために

まずは相談支援専門員にご相談ください

相談は無料

近所に気になる家がある

一人暮らしの心配

引きこもり

日常生活の相談

親亡きあとの生活への不安

仕事が続かない

災害時の心配

近所付き合い

障がいのある方に役立つ情報

福祉サービスの利用

退院後の暮らし

Q. 相談支援専門員ってどんな人？

A. 障がいのある方やそのご家族・地域の方からの、様々な悩み事や困り事などの解決に向けて相談をお受けします。

Q. 本人や家族でないと相談できないの？

A. どなたでも相談できます。気になることがあれば、いつでもご相談ください。

Q. 困っているけど周囲に知られたくない…

A. 秘密や個人情報は守ります。ご本人やご家族の気持ちに寄り添って支援します。

相談窓口はこちらです　障がい者相談支援事業所（出雲市委託）

事業所名	住所	電話番号	FAX番号
ハートピア出雲	出雲市武志町693-6	23-2720	23-2721
ふあっと	出雲市武志町693-1	25-0130	25-3401
さざなみ学園	出雲市神西沖町2534-2	31-9996	43-2256
光風園	出雲市湖陵町大池240-1	43-0025	43-2119
出雲サンホーム	出雲市神西沖町1315	43-7575	43-7577
かのん	出雲市神西沖町2476-1	25-8811	43-1751
太陽の里	出雲市斐川町名島90	25-7370	72-9122
そうゆう相談センター	出雲市斐川町学頭1625-4	72-7085	72-7201
プレーゲ	出雲市灘分町613（出雲市立総合医療センター内）	62-2977	31-5977

【発行】出雲市障がい者施策推進協議会 つながる専門部会 【連絡先】電話.21-6961 FAX.21-6598（出雲市福祉推進課）

令和3年度　つながる専門部会　事業計画書

部会メンバー	部会長　　：玉木（かのん） 副部会長　：福田（プレーゲ） メンバー　：東（Reve）、渡部・古家（ふあっと）、原田（大社高齢者あんしん支援センター）、吉田（いんくるネットいずも）、古割（出雲保健所）、今岡（平安堂）、三浦（ホームケアー島根）、福間（太陽の里） 事務局　　：杉原（福祉推進課）
現状 （問題点・課題）	①介護保険とつながる：障がい福祉サービスから介護保険への移行をスムーズに行う必要があるが、現状は当事者の方が不安を抱え、戸惑いを感じてしまうことがあったり、相談支援専門員とケアマネがうまく連携できていないケースがある。 ②地域とつながる：障がいのある方にとって地域とのつながりは大事だがお互いに協力し合える段階までには進めていない現状がある。障がい者がインフォーマルな支援者ともつながれるように環境を整えたり、地域住民の方に理解を深めてもらえるような取組を考えていく必要がある。
テーマ （ねらい）	①介護保険とつながる：ケアマネと相談支援専門員がお互いに顔を合わせて相互理解を深め、連絡がとりやすく同じ目的に向かって共同できる環境作りをする。 ②地域とつながる：コミュニティーセンターと連携を図りながら、地域住民が障がいのある人や相談員について知り、理解を深めてもらえるような働きかけを行う。
具体的方法 （評価を含む）	①介護保険とつながる 〇障がい福祉サービスと介護保険サービスのサービス対照表の見直し。 〇ケアマネと相談支援専門員との共同研修会を実施。 ＊コロナ感染症対策として、参加人数を減らし、複数回の実施とする。 ②地域とつながる：コミュニティーセンターへ出向き、地域住民とのつながりを意識識しながら、活動の企画や、相談支援の役割等について普及・啓発に取り組む。 ＊モデル地区＊ 川跡コミセン、神西コミセン、高松コミセン ＊相談支援専門員普及啓発ポスターの掲示を各関係機関に依頼する。 （添付資料参照） 掲載予定場所…コミュニティーセンター、市・地区社協、あんしん支援センター、居宅介護事業所、学校、病院、保健所、図書館、ハローワーク等。 ＊いずれの活動も新型コロナウイルスの発生状況等により、活動内容の変更や中止等も有り得る。

年間計画（案）

月	内容	備考
4 月		
5 月	第 1 回WG（5 月 14 日）	
6 月	第 2 回WG（6 月 22 日）	
7 月	第 3 回WG	
8 月	第 1 回　ケアマネと相談支援専門員の合同研修会（8 月 24 日）	
9 月	第 4 回WG	
10 月	第 2 回　ケアマネと相談支援専門員の合同研修会	
11 月	第 5 回WG	
12 月		
1 月	第 6 回WG	
2 月		
3 月	第 7 回WG	

＊相談支援専門員の普及啓発ポスターの掲載依頼については随時対応。

＊コミュニティーセンターとの共同企画に関しては、各コミセン担当者が開催に向けて対応する予定。

令和2年度 くらし専門部会 報告書

部会メンバー	部会長　：柳楽（ハートピア出雲） 副部会長：森谷（そうゆう） メンバー：福田（プレーゲ）、福島（金太郎の家）、吉田（ぽてとはうす）、 福代（ＣＳいずも）、宮本（そうゆう） 事務局　：三原（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	① 資源調査とマップの作成 情報を収集し地域の資源・居場所を調査する。 相談支援専門員、サービス提供事業者、当事者から実際に利用しているインフォーマルな資源（居場所）を調査する。 ② 理解の促進 こんな居場所があればいいという意見をまとめ、既存の資源に対し障がい者の受入れの理解の促進についても取り組む。
活　動　状　況	■部会　計９回開催（6/11、7/9、8/17、9/10、10/8、11/12、12/10、1/25、2/10） ①６～７月 ・資源マップ調査票の様式を検討 ・くらし専門部会が所属する事業所に向けて試行的に調査票を配布 （目的：資源情報収集と様式の見直しにつなげる） ②８月 ・資源マップ調査票の様式について再度検討し修正 ・資源マップ調査票を配布し情報提供を依頼 対象：相談支援専門員、市内の一部の福祉サービス提供事業所 （利用者やご家族へのききとり、職員からの情報提供を依頼） ③９～１０月 ・収集した資源情報を整理 ・情報が不足している地域がある為、再度地域を絞って各部会員が情報収集を実施 ④１１月 ・収集した情報は、内容や地区に偏りがあるため、資源マップではなく、相談支援専門員が活用できる一覧表として活用することを検討　⇒運営会議で報告、了承 ⑤１２月～１月 ・情報一覧化に向けて書式を整理 ⑥２月 ・資源情報一覧表完成 ・情報提供先への説明
成　　果	① 相談支援専門員、サービス提供事業所から提供していただいた資源の情報は、相談支援を行う際の一助になり得るものであり共有することとする。 ② 相談支援専門員等から挙がった地域課題を検証したところ、出雲市全域の共通するインフォーマルな資源マップというよりも、利用者が暮らしている地域の身近な資源を発掘し、その人のためのマップを作成していく必要性があることがわかった。相談支援専門員は、フォーマルなサービスだけでなく、身近な資源を発掘し、つなげていくスキルを身につけて行かなければならないことを理解した。

課　　題 次年度への方向性	①地域を基盤とした支援 利用者が生活している地域の中の資源を発掘し、支援のネットワークを広げていく方法について知る。 ②実際の居場所作り 地域課題の中の「居場所がない」「こんなところがあったらいいな」というニーズに対し、居場所として利用できるような場所や機会の提供について、地域住民の理解を広げるような取り組みを他の部会と協同しながら実施する。

令和3年度 くらし専門部会 事業計画書

メンバー	部会長　　：森谷（桑友） 副部会長　：柳楽（ハートピア出雲） メンバー　　：宮本（桑友）、熊谷（たすけあい平田） 　　足立・三原・江岡・石村（くまローズ）※4名持ち回り 事務局　　：木村（福祉推進課）
現状 （問題点・課題）	昨年度までの成果として、資源情報一覧の作成が挙げられる。同じ出雲市内でも、地域における情報量・内容の偏りが顕著であり、当初予定していた資源マップ作成から方向転換を図った。 随時更新も求められており、情報一覧の有用性や活用方法も含めた情報収集を重ねることで、さらなる改善につなげたい。 また、対象者のニーズも多種多様で、インフォーマル資源も地域性に大きく左右される。柔軟な視点でニーズと資源を結び付けることが、地域生活の豊かさにつながる。相談支援専門員一人一人がそうした資質を向上させる点も課題であると考える。
テーマ （ねらい）	○資源情報一覧の充実を図る ○ニーズと資源を結び付けるスキルの向上
具体的方法 （評価を含む）	○資源情報一覧の充実を図る ①活用に関する情報収集→情報共有（好事例など） ・事務局メールを活用予定 ・サービス調整会議での報告 ②サービス提供事業所への配布（情報源の拡大） ・他部会との連携を検討する 案：つながる部会（地域住民やコミセンとの情報交換） 　　ささえる部会（サービス提供事業所での活用を依頼） ○ニーズと資源を結び付けるスキルの向上 ①10月サービス調整会議にて ・個別事例を活用した「資源マップづくり」ワークショップ（案） ※今後の部会において検討を重ねる ②取り組んだワークショップをツール化 ・日常業務において活用可能な形に整える

年間計画（案）

月	内　容	備　考
4 月		
5 月	第 1 回くらし専門部会（5 月 20 日） ・事業計画及び年間計画検討	
6 月	第 2 回くらし専門部会（6 月 7 日） ・事業計画検討	
7 月	第 3 回くらし専門部会（7 月 5 日） ・資源一覧改善（情報収集） ・ワークショップの内容を協議	他部会との連携 ↓
8 月	第 4 回くらし専門部会 （同上）	
9 月	第 5 回くらし専門部会 （同上）	
10 月	サービス調整会議【地域資源について】 ・資源一覧の情報共有（好事例など） ・ワークショップ	
11 月	第 6 回くらし専門部会 ・資源一覧更新（様式見直し／追加情報掲載など） ・ワークショップをツール化	
12 月	第 7 回くらし専門部会 （同上）	
1 月	第 8 回くらし専門部会 ・全体のまとめ ・次年度に向けて	
2 月	第 9 回くらし専門部会（予備） （同上）	
3 月		

令和2年度 じりつ専門部会 報告書

部会メンバー	部会長　：渡部（ふあっと） 副部会長：勝部（そうゆう） メンバー：長廻・見戸（出雲サンホーム）、岩崎（かのん）、東・冨岡（Reve） 飯島（こころの医療センター）、和田・佐藤（光風園）、長澤（美野園） 夕永（CS いずも）平田（出雲保健所） 事務局　：和田・川上（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	① 地域生活支援拠点整備に向けた課題検討 「緊急時の受け入れと対応」「体験の機会と場」 ② 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築について検討 ③ 精神障がい者の退院支援について検討
活　動　状　況	■部会　計９回開催 （開催日：6/11、7/7、8/6、9/10、10/9、11/12、12/17、1/13、2/17） ６月○緊急時の受け入れと対応に必要な登録票作成について ○短期入所事業所の体験利用について ７月○地域生活支援拠点プロジェクトチームの報告 ○パンフレット作成 ○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて ８月○パンフレット作成 ○「体験の機会と場」について ９月○地域生活支援拠点プロジェクトチームの報告 ○「体験の機会と場」について 10 月○「体験の機会と場」について 11 月○地域生活支援拠点プロジェクトチームの報告 ○「体験の機会と場」について ○次年度事業計画、予算について 12 月○ささえ愛サポート登録票の受付状況について ○空き家対策室、天野氏（不動産業者）との話し合いの報告 ○「緊急時の受け入れと対応」「体験の機会と場」について １月○「緊急時の受け入れと対応」「体験の機会と場」について ○次年度の部会について ２月○地域生活支援拠点プロジェクトチームの報告 ○「緊急時の受け入れと対応」「体験の機会と場」について
成　　果	地域生活支援拠点整備の課題を具体的実施に向け検討し事務局に報告、地域生活支援拠点プロジェクトチームへ提案する事ができた。 ささえ愛サポートのチラシ作成や緊急時の受け入れと対応（SOS）、体験の機会と場（チャレンジ）の形ができた。
課　　題 次年度への 方向性	◎①地域生活支援拠点整備の「緊急時の受け入れと対応」「体験の機会と場」についての現状把握と振り返り、課題検討 WG ②精神障がい者の地域移行支援 WG ③地域の体制づくり WG　　※WG に分かれて検討 ◎研修会の開催（地域移行支援について）

令和3年度 じりつ専門部会 事業計画書

メンバー	部会長：渡部（ふあっと）副部会長：勝部（そうゆう） 地域移行支援 WG メンバー：飯島・和田（こころの医療センター） 多々納・白築（県立中央病院）、矢野・渡部（海星病院）、平田（出雲保健所）、三島（ハートフルホームかんど）、金友（WANAJAPAN）、 東（Relisa）、冨岡（Reve） ささえ愛サポート WG メンバー：長澤（美野園）、三島（太陽の里）、井田（ふたば園）、和田・杉原・濱村（光風園）、長廻・見戸（出雲サンホーム）、岩﨑（かのん）、夕永（CS いずも）、東（Reve）、布野（ハートピア出雲） 事務局：和田・足立（福祉推進課）
現状 （問題点 ・課題）	◎精神障がい者の地域移行支援について検討 ◎精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について検討 ◎ささえ愛サポートの進捗状況と課題検討
テーマ （ねらい）	障がい者が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、地域生活支援拠点での課題の検討や障がい者の地域移行に取り組んでいく
具体的方法 （評価を含む）	◎地域移行支援 WG、ささえ愛サポート WG に分かれ、それぞれ支援機関が集まり協議していく。検討した課題等をじりつ部会にあげる。 ○地域移行支援 WG ・各支援機関より地域移行を取り組むうえでの課題をあげる。 ・事例検討等を通して課題検討し地域移行を促進する。 ・出雲市精神障がい者退院支援事業で整理された課題について検討する。 ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業、出雲圏域精神保健包括支援会議と連携して取り組む。 ○ささえ愛サポート WG ・現在の進捗状況と課題の検討

年間計画（案）

月	ささえ愛サポート WG	地域移行支援 WG	じりつ部会(全体)	サービス調整会議
4 月			4 月 22 日（木）	
5 月				
6 月	6 月 29 日（火）	6 月 15 日(火)		
7 月				
8 月		8 月 19 日(木)		8 月 25 日（水） ささえ愛サポートの 稼働状況について
9 月				9 月 28 日（火） ささえ愛サポートの 事例
10 月		10 月 21 日(木)		
11 月				
12 月		12 月 16 日（木）		12 月 21 日（火） ささえ愛サポートの 稼働状況について
1 月				
2 月		2 月 17 日（木）		
3 月				

令和2年度　こども専門部会　報告書

部会メンバー	部会長：板倉（さざなみ学園） 副部会長：田中（プレーゲ） メンバー：川上（ハートピア出雲）・福田由（プレーゲ）・山形（ＣＳいずも）・ 事務局　：柳（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	○教育との連携において、連携がスムーズに行えるようにパンフレットを活用しながら福祉サービスや相談支援専門員の動きや相互の役割を理解する。 ○医療的ケアや配慮を必要とする児童等の支援について、その対応の理解と支援者の連携が必要。役割分担を明確にし、連携に必要なことを具体的にして課題の解決に努める。
活　動　状　況	①　部会　計 10 回開催 （6/22、7/27、8/12、8/24、9/17、10/26、11/16、1/25、2/22、3/22） ②　「在宅生活支援フロー図」をもとに、相談支援専門員の動きとして「相談支援専門員の支援例」を作成した。 ③　9 月 28 日　勉強会　「医療的ケアが必要な児を地域で看て育てていくために」 ※出雲保健所も参加していただいた。 ④　相談支援専門員に実態調査アンケートを実施。 ⑤　9 月 7 日　出雲圏域医療依存度の高い在宅療養児生活支援検討会　参加 ※5 月 19 日　小・中学校コーディネーター研修参加予定であったが、コロナ感染症対策のため部会の参加は見合わせた。
成　　果	教育との連携 ○教育委員会と協力しながら、福祉サービスの内容や相談支援専門員の動きについてパンフレットを作成した。 ・5 月 19 日　小・中学校コーディネーター研修に作成したパンフレットを活用説明 医療との連携 ○相談支援専門員が医療的ケア児、配慮を必要とする児童等への支援の仕方や流れ等について理解するため勉強会の開催をした。 ・「相談支援専門員の支援例」が具体的で良かったとの意見があった。相談体制が整うことで「相談支援専門員として関わっていきたい」と前向きな意見も聞けた。今後、相談支援専門員の拡充につながると考える。
課　　題 次年度への方向性	○重度心身障がい児、医療的ケア児の支援について課題を整理し検討していく。 ○障がい児支援の課題に必要な資源やスキルアップを検討し取り組む。

令和3年度　こども専門部会　事業計画書

メンバー	部会長　　：田中（プレーゲ） 副部会長　：川上（ハートピア出雲） メンバー　：岡本・勝部（さざなみ学園）、福田由（プレーゲ） 　　山形（ＣＳいずも） 事務局　　：柳（福祉推進課）
現　状 （問題点・課題）	・医療的ケア児の実態とニーズ把握が不十分である。 ・医療的ケア児を受入可能な事業所が不足している。 ・学齢期の学習障がいへのアプローチや療育等、特有な問題に対する資源不足や情報が足りない。
テーマ （ねらい）	・重度心身障がい児、医療的ケア児の支援について課題を整理し検討していく。 ・障がい児支援の課題に必要な資源やスキルアップを検討し取り組む。
具体的方法 （評価を含む）	・実態把握を行うため、障がい児親の会との連携を図り、相談支援専門員が感じる課題ではなく、当事者の立場で課題を確認する。 ・課題を整理し、出雲保健所やささえる部会の児童通所 WG 等との連携を図り、ネットワーク化も視野に検討する。

年 間 計 画（案）

月	内　　容	備　考
４月	２０日　第１回　部会　９：３０～ ・年間計画策定	
５月		
６月	１０日　第３回　部会　９：３０～	
７月	８日　　第４回　部会　９：３０～	２７日 サービス調整会議 専門部会活動計画
８月	１２日　第５回　部会　　９：３０～	
９月	９日　　第６回　部会　９：３０～	日 専門部会活動報告
１０月	１３日　第７回　部会　９：３０～	
１１月	１１日　第８回　部会　９：３０～ ・	
１２月	９日　　第９回　部会　９：３０～	
１月	１３日　第１０回　部会　９：３０～	２５日 サービス調整会議 勉強会
２月	９日　第１１回　部会　９：３０～	２２日 サービス調整会議 事例検討
３月	１０日　第１２回　部会　９：３０～	２２日 サービス調整会議 専門部会活動報告

令和2年度　ささえる専門部会　報告書

部会メンバー	部会長　：長澤（美野園） 副部会長：高尾（ﾊｰﾄﾋﾟｱ出雲）　　書記：青木（あそび） メンバー： 居住系ＷＧ　　：長澤（美野園） ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑＷＧ　：杉原（光風園）、井田（ふたばﾎｰﾑ） 日中活動系ＷＧ　：阿食（麦の家）、足立（まるべりー出雲） 就労支援ＷＧ　　：青木（あそび）、柳楽（ぽんぽん船）、柳楽（ﾌﾛﾝﾃｨｰ） 居宅介護ＷＧ　　：竹内（金太郎の家）、富田（訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝはる） 児童通所ＷＧ　　：高尾（ﾊｰﾄﾋﾟｱ出雲）、小村・木村（CS いずも）、池田（ぽこぽこ） 事務局　　：和田（福祉推進課）
テーマ（ねらい）	①　サービス管理責任者等が連携するために情報共有を行い、サービス管理責任者等の質の向上を目指す。 ②　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策として、各事業所で実施している感染予防対応等について意見交換を行い、各事業所での対応や対策につなげていく。 ③　地域生活支援拠点整備について、各専門部会と連携をし、必要に応じてアンケートや意見交換を実施していく。
活　動　状　況	■部会　計　４回開催　（　開催日記入　　6/30　10/7　　12/16　　2/22） ①新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症の感染対策や地域での感染が確認されていることから、例年実施している部会全体での研修会を行うことができなくなったため、各ＷＧでの研修会に規模を縮小して実施した。 ②研修内容については感染症予防のためﾜｰﾙﾄﾞｶﾌｪは中止とし、虐待防止・権利擁護研修を各ＷＧで実施した。また、居住系・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ事業所職員を対象とした感染症対策研修を実施した。 ③各ＷＧについては、年度前半に予定していた活動は全て延期となったが、年間の計画回数のＷＧは実施できた。内容としては、施設見学等の訪問は全て中止とし、コロナ禍における各事業所の対応や活動の実態などの意見交換が中心となった。 ④出雲市地域生活拠点「ささえ愛サポート」について、各ＷＧごとに制度の概要等について説明を受け、質疑応答を行った。
成　　果	①　虐待防止・権利擁護研修においては、各ＷＧ内で実施したため、各ＷＧの特性に応じた内容で研修会を開催できたため、より身近な事例等で意見交換できた。 ②　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症予防について各事業所で行っている対策等の意見交換を行うことで、それぞれの対応を各事業所に持ち帰り実践することができた。 ③　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症への対策として、事業所内でｸﾗｽﾀｰが発生した場合の対応等について、保健所担当者を招いての研修会を開催したことで、ｶﾞｳﾝの着脱やゾーニング等の具体的な対応について学ぶ機会を得ることができた。（対象：居住系・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ事業所のみ）
課　　題 次年度への方向性	①感染症予防について、複数の事業所を併用している利用者の方が増えていることから、利用者の方が感染症に罹患したり濃厚接触者となった場合等に、事業所間の情報共有についての体制作りを今後どのようにしていくべきかを相談支援専門員とも

	検討していく必要があると思われる（ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞや新型ｺﾛﾅ等）。 ②サービス管理責任者更新研修で、地域の自立支援協議会について調べてくる課題があるが、自立支援協議会について知らないサービス管理責任者が多く見受けられた。多くのサービス管理責任者にとって自立支援協議会や市の障がい福祉計画については関心事ではないと思われるため、今後そのような計画等にサービス管理責任者等も参画していくという意識作りを行っていくための検討を行っていく。 ③出雲市地域生活拠点「ささえ愛サポート」について、今後も相談支援専門員と連携を取りながら進めていくためには、細やかな情報交換・共有を行っていく。 ④サービス調整会議の検討で挙がった「身体ＧＨ・日中一時・短期入所施設の人員確保」という地域課題について、部会においても支援者の人員確保にかかわる取組み内容について検討していく。

令和3年度　ささえる専門部会　事業計画書

メンバー	部会長　　：柳楽（ぽんぽん船） 副部会長　：長澤（美野園）、高尾（ﾊｰﾄﾋﾟｱ出雲）書記：青木（あそび） メンバー　　： 居住系ＷＧ：長澤（美野園）、三島（太陽の里） ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑＷＧ：杉原（光風園）、井田（ふたばﾎｰﾑ） 日中活動系ＷＧ：阿食（麦の家）、まるべりー出雲（足立） 就労支援ＷＧ：柳楽(ﾌﾛﾝﾃｨｰ)、青木（あそび）、柳楽（ぽんぽん船） 居宅介護ＷＧ：松井（介護ｽﾃｰｼｮﾝさくら）、飯国（ｹｱｻﾎﾟｰﾄやわらぎ） 児童通所ＷＧ：高尾(ﾊｰﾄﾋﾟｱ出雲)、矢田・久保田（ＣＳいずも）池田（ぽこぽこ） 事務局　　：和田（福祉推進課）
現状 （問題点・課題）	１．感染症予防について、複数事業所を併用している利用者の方が増えていることから、感染症に罹患したり濃厚接触者になった場合等の事業所間の情報共有の体制づくりについて、相談支援専門員と検討していく必要がある。 ２．サービス管理責任者更新研修で、地域の自立支援協議会について調べてくる課題があるが、知らないサービス管理責任者が多く見受けられた。サービス管理責任者として、サービス提供の現場からの声（地域課題）をあげていくため、協議会への参画意識を醸成していく必要がある。 ３．地域生活支援拠点「ささえ愛サポート」を進めていくにあたり、相談支援専門員や他の専門部会との情報交換・共有等、連携が必要。 ４．サービス調整会議で、ささえる部会が解決すべき地域課題として挙がった「身体ＧＨ・日中一時・短期入所施設の人員確保」について、検討していく。
テーマ （ねらい）	１．サービス管理責任者等で情報交換・共有し、連携を深めることでサービス管理責任者等の質の向上を目指す。 ２．相談支援専門員や他の専門部会と連携し、課題解決につなげていく。 ３．地域生活支援拠点「ささえ愛サポート」を推進する。

具体的方法 （評価を含む）	１．部会の開催 年４回（4 月、7 月、11 月、3 月） 部会で実施する研修会等の企画・準備 各ＷＧの活動についての情報交換 地域課題についての検討 ２．研修会等の企画実施 ①虐待防止・権利擁護研修会：10 月～11 月 障がい者虐待防止や権利擁護に関する意識の向上を図るため、身近な事例を取り上げたグループワークによる研修を実施する。 新型コロナウィルス感染症感染拡大防止のため、昨年度に引き続き、各ＷＧで実施する。 ②相談支援専門員との協働研修 日々の実践における課題や感染症予防等について情報交換し、役割の確認・事業所間の情報共有の体制づくり等について検討していく。 ③地域生活支援拠点「ささえ愛サポート」への取り組み 各ＷＧにおいて、随時、現状と課題について取りまとめ等を行うとともに、相談支援専門員や他の専門部会と連携し、情報交換・共有しながら進めていく。 ３．出雲市障がい者施策推進協議会への参画意識醸成 次の障がい福祉計画見直し（Ｒ4 年度）に向けて、2 年かけて進めていく。 まずは、組織図で協議会の仕組み・各専門部会等の役割を確認する。

年間計画（案）

月	内　　容	各ＷＧの活動
4 月	・27 日　第 1 回専門部会 年間計画の決定	居住系ＷＧ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑＷＧ
5 月		日中活動系ＷＧ・就労支援ＷＧ 児童通所ＷＧ
6 月		居宅介護ＷＧ
7 月	・6 日　第 2 回専門部会 虐待防止・権利擁護研修について ＷＧの活動状況報告	居住系ＷＧ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑＷＧ 児童通所ＷＧ・就労支援ＷＧ
8 月		日中活動系ＷＧ
9 月		
10 月	虐待防止・権利擁護研修（各ＷＧごとに実施） ・（　　）日　第 3 回専門部会 虐待防止・権利擁護研修の振返り ＷＧの活動状況報告	児童通所ＷＧ
11 月		居住系ＷＧ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑＷＧ 日中活動系ＷＧ
12 月	・21 日　サービス調整会議への参加 居住系ＷＧ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑＷＧ （ささえ愛サポートの稼働状況について）	児童通所ＷＧ
1 月		
2 月		居住系ＷＧ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑＷＧ 日中活動系ＷＧ・児童通所ＷＧ
3 月	・22 日　相談支援専門員との意見交換会 ・（　　）日　第 4 回専門部会 今年度の反省・次年度の計画立案	

令和3年度 そうだん専門部会 事業計画書

メンバー	部会長　　：足立（ふあっと） 副部会長　：萬代（ハートピア出雲） メンバー　：渡部（ふあっと）、景山（ハートピア出雲） 板倉（さざなみ学園）、勝部・柏井（そうゆう） 山形（ＣＳいずも）、小村（美野園） 福田啓（プレーゲ）、東（Reve） 事務局　　：三原・柳（福祉推進課）
現　状 （問題点・課題）	○報酬改定等に伴う加算の創設などがあり、現行の相談支援マニュアルでは現状に即していないものになっている。 ○災害用アセスメントを作成した。今後、活用に向けての仕組みづくりや羞恥をしていく必要がある。 ○相談支援専門員のスキルアップのために研修会を継続的に開催していくが、参加者が固定されており、参加しづらい方への働きかけが必要である。 ○相談支援事業所（機能強化・委託・指定特定）の役割を再度確認し、地域でＯＪＴができる仕組みや、相談支援体制の構築に向けての検討が必要となっている。
テーマ （ねらい）	・相談支援専門員のスキルアップや連携の強化に取り組む。 ・災害などの緊急時も考慮したサービス等利用計画となるようツールの見直しなどに取り組み、障がい者のエンパワーメントや生活の質の向上、より一層の安全な暮らしの実現をめざす。
具体的方法 （評価を含む）	・相談支援マニュアルの作成に取り組む モニタリング期間の設定に関する具体例の例示 災害用アセスメントについて 加算様式の整理など ・災害用アセスメントの活用について サービス調整会議などを通じて、令和 4 年度に本格稼働するために活用方法の周知を行う。 ・研修会の開催 相談支援マニュアル作成後に、活用方法について周知する。 事例検討や令和 2 年度企画していた研修会の開催について検討する。

年 間 計 画（案）

月	内　　容	備　考
４月	３０日　第1回　部会　１６：００～ ・年間計画策定	
５月		２６日 サービス調整会議 出雲市の防災対策
６月	４日　第2回部会１５：３０～ 相談支援マニュアル作成に向けての検討 サービス調整会議における企画（災害用アセスメントの活用に向けて）	２２日 サービス調整会議 事例検討
７月	日　　相談支援マニュアル改訂作業 サービス調整会議の振り返り（災害用アセスメント）	２７日 サービス調整会議 専門部会活動計画
８月	日　　相談支援マニュアル改訂作業	
９月	日　　相談支援マニュアル改訂作業	
１０月	日　　相談支援マニュアル改訂作業	
１１月	日　　相談支援マニュアル改訂作業	
１２月	日　　相談支援マニュアル改訂作業 研修企画	
１月	日　　相談支援マニュアル改訂作業 研修会の開催（事例検討など）	
２月	日　　研修会の開催（事例検討など） 活動の振り返り・次年度の活動について	
３月	日　　研修会の開催	２２日 サービス調整会議 専門部会活動報告

令和2年度　人材育成チーム　報告書

（令和3年度:そうだん専門部会へ移行）

目標：本人中心の計画策定が実践できる

〈研修会〉

開 催 日	内　　容		参加者
7 月 31 日（金） 9：30～11:30 市役所６階 全員協議会室	ケアガイドラインに基づいた行動指針 講師：Reve　東氏 グループワーク	・行動指針をふまえて、自分の実践を振り返り、相談支援専門員として大切にしていきたいことを話し合う。	15 事業所 29 名
8 月 21 日（金） 13:30～15：30 市役所６階 全員協議会室	研修会 講師 社会福祉法人　清樹会 地域生活支援センターすみよし 宮崎市基幹相談支援センター 主任相談支援専門員 山口　麻衣子氏	・医療との連携の図り方等を学ぶ。	※コロナウイルス感染拡大防止のため中止
9 月 25 日（金） 9：30～11:30 出雲弥生の森 10 月 23 日（金） 9：30～11:30 出雲弥生の森	事例検討 「野中式＋ストレングスモデル」	・見立てを実践に移す。 ※参加者を 9 月、10 月に 2 回に分けて実施。	16 事業所 延 39 名 実 33 名
11 月 25 日（水） 9:30～12:00 出雲弥生の森 12 月 17 日（木） 13:00～15:30 出雲弥生の森	事例検討 「野中式＋ストレングスモデル＋計画作成」	・前向きな手立てを出すために、野中式事例検討会から計画作成までを学ぶ。 ※参加者を 11 月、12 月に 2 回に分けて実施。	15 事業所 延 41 人 実 35 名

〈会議〉

人材育成チーム会議　6/17、7/17、8/21、9/10、10/16、11/17　（7 回）

ツール検討チーム作成 災害用アセスメント票

（令和3年度：そうだん専門部会に移行）

災害用アセスメント票

作成：　　年　月　日

基本情報	ふりがな			生年月日	平成　年　月　日（　）歳			（顔写真）
	氏名			住所				
	性別		連絡先	携帯		メール FAX		
				自宅				
	世帯人数	人（本人含）	家族構成					
障害	身体	障害	障害名 診断名		医療機関 主治医等			
	特記事項				医療機関 主治医等			
緊急連絡先	①			住所 連絡先		備考		
	②			住所 連絡先		備考		
避難支援者	①			住所 連絡先		備考		
	②			住所 連絡先		備考		
	③			住所 連絡先		備考		

身体項目	内容	支援/必要性	備考・対応内容等
	歩行・避難時の移動	いる・いらない	
	排泄等	いる・いらない	
	視力・聴力	いる・いらない	
	意思疎通	いる・いらない	
	必要な医薬品、衛生用品の準備	いる・いらない	
	食事、食品の配慮	いる・いらない	
	日常的に使用している福祉用具・医療機器、電源使用など	いる・いらない	
	【特記事項・避難所での配慮・設備等】		

避難行動項目			
	災害時の連絡	いる・いらない	
	災害時に自宅で自分の身を守れる	いる・いらない	
	災害時に自分で避難が出来る	いる・いらない	
	災害時に自分で非常用持出袋を持って避難できる	いる・いらない	
	【特記事項・避難行動時の具体的な支援内容】		

居住環境項目				見取り図
	同居者に介助者がいる	いる・いない		
	【住宅】 木造　鉄骨造　鉄筋コンクリート造　・【築年数】　年　・【居住階】　階			
	【家具転倒の危険】 あり　なし　・【エレベーター】 あり　なし　・【ペット】 いる　いない			
	【特記事項・室内の対応策など】			

地域環境項目	隣人との交流	ある・ない	
	災害時に隣人への連絡先	ある・ない	
	地区の民生員との繋がり	ある・ない	
	自治会との繋がり	ある・ない	
	地域での防災訓練への参加	ある・ない	
	災害時に隣人や自治会の方に支援をお願いしたいという意思	ある・ない	
	【特記事項・地域でのサポート体制など】		
意識・準備項目	【情報収集手段】　ラジオ　携帯、スマホ　インターネット　災害情報サイト登録　有線放送　テレビ		
	避難必要時に自身での判断力（警戒レベルを知っている）	ある・ない	
	日頃から災害をテーマにした話し合い	ある・ない	
	ハザードマップで自宅の位置を確認した事がある	ある・ない	
	避難所、福祉避難所の確認	ある・ない	決まっている避難場所：
	避難所までの順路の確認	ある・ない	
	災害時用の備蓄品の用意（食料、水など）	ある・ない	
	災害時用の持出袋、持出リスト	ある・ない	
	停電時に自宅で過ごせる対応策を考えている、又は準備	ある・ない	
	防寒着、ヘルメット、防災頭巾などの準備	ある・ない	
	救急セットの準備	ある・ない	
	簡易トイレの準備	ある・ない	
	避難行動要支援者名簿の登録	ある・ない	
	災害時に備えて事前に医療機関との話し合い	ある・ない	
	災害時に備えて事前に短期入所等の対応策や検討	ある・ない	
	【特記事項】		

早急に検討・対応が必要な項目		
①		
②		
③		

サービス等利用計画書への記載内容		
①		
②		

令和2年度　就労支援ネットワーク会議　報告書

メンバー	会長：青木（あそび） 副会長：足立（まるべりー出雲） 委員：戸谷（エルパティオ三葉園）　葛西（ワークセンターフロンティー） 柳楽（ぽんぽん船）　石崎（やまびこ園） 明正（なかよし）　大塚（みずうみ） 小豆澤（豆の樹）　足立（ハローワーク出雲） 安田・福田（リーフ）　山根・田原・和田（出雲養護学校） 原（島根県教育庁特別支援教育課）　萬代（ハートピア出雲） 冨岡（ふあっと）　鍵山（こころの医療センター） 藤原（デイケアピノキオ）　矢田（デイケアきらり） 中村（出雲保健所） 事務局：足立・立花（福祉推進課）
テーマ （ねらい）	①障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 ②企業とのつながり作り ③自己理解・情報共有ツール作り ④就労定着支援に関する活動
活動状況	＊ネットワーク会議の開催：7/3、9/3、11/4、1/13、3/12（予定） ＊事例検討：ネットワーク会議開催時に実施 ＊ジョブガイダンス（動画教材制作） 内容検討ワーキング 9/3、10/6、11/9、2/22　R3 年度中完成を目標 ＊障がい者雇用に関する企業情報交換会：12 月 3 日　9 社 15 名参加 障がい者雇用事例発表（株式会社魚の屋）、個別相談会 ＊自己理解・情報共有ツール作成 『自己理解支援ノート≪出雲版≫』を完成、市内の就労支援事業所にデータ配布 ＊はたらく仲間のコーヒータイム：毎月第3金曜日　18:00～19:00 一般就労で働く障がい者の気軽な集いの場として「ふじひろ珈琲」で開催 6/19、8/21、9/18、10/16、11/20 （新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内に感染者がある時期は中止とした） ＊就労アセスメント打合せ会：5/7 養護学校卒業予定者の就労アセスメント実施方法について関係者打合せ
成　果	○障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 定期的にネットワーク会議を開催し、事業の企画・実施に共に取り組んだ。一般就労を目指す当事者のための学習機会として例年開催してきた合同ジョブガイダンスについては、コロナ禍で集合研修に代わる学習機会の提供が必要となったことから、動画教材制作に取り組んでいる。一般就労している当事者への就労定着支援として実施している『はたらく仲間のコーヒータイム』も、コロナ禍の影響で開催を見合わせる月があったが、不安な社会情勢の中でつながりの場の必要性はむしろ高まっていると感じられる。

	○企業とのつながり作り リーフと共催で障がい者雇用に関する企業情報交換会を開催。9 社 15 名の参加があった。コロナ禍でグループワークによる情報交換が難しく、講演と個別相談会という形で実施。参加企業からは、今後も参加したい、業界・職種ごとに具体的なかかわりの例を学びたい等の反響があった。 ○自己理解・情報共有ツールの開発 精神障がい者の就労支援・定着支援においては、当事者の抱える困難さが一見して捉えづらく、さらに病状には波があることが支援上の課題となりやすい。WRAP（元気回復行動プラン）の手法を応用して、当事者が自己理解を深めたり、支援者と共有することができるツール制作に取り組んだ。『自己理解支援ノート≪出雲版≫』が完成し、市内の就労支援事業所にデータ配布を行った。
課　題 次年度への方向性	○障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 就労支援をめぐる連携協働の基盤としてのネットワークの活動は、今後も継続していく必要がある。協働により実施してきた事業は地域の社会資源として定着してきており、社会情勢に合わせて工夫しながら継続していきたい。また、事例検討を通じて就労支援をめぐる課題やニーズについて考え、地域課題として共有する取り組みも継続したい。 ○企業とのつながり作り 障がい者雇用率の引き上げに伴い障がい者雇用への関心やニーズが高まる一方で、不安定な社会情勢もあり、不安を抱いておられる企業も少なくない。より良いマッチングや就労定着支援を考えていく上では、企業側のニーズをしっかり捉え、相互理解と連携の基盤づくりをしていくことが肝要である。雇用分野の関係機関ともしっかり連携をとりながら、継続して取り組んでいきたい。 ○就労アセスメントにかかわる情報交換 就労継続支援 B 型事業の利用にあたり就労アセスメントが必要となるケースについて、市内の就労移行支援事業所（令和 2 年度は 3 事業所）で分担して担っている。必要な方に適時に、質の高いアセスメントを提供できるよう、関係機関が連絡を取り合い協力体制を維持していくことが必要である。情報や課題を共有できる場を設けていきたい。

令和3年度　就労支援ネットワーク会議　事業計画書

メンバー	会長：青木（あそび） 副会長：足立（まるべりー斐川） 委員：佐藤（あそび）戸谷（エルパティオ三葉園）、柳楽（フロンティー）、 柳楽（ぽんぽん船）石崎（やまびこ園）、明正（なかよし）、小豆澤（豆の樹） 足立（ﾊﾛｰﾜｰｸ出雲）、安田（リーフ）、福田（リーフ）、山根（出雲養護学校） 岡本（出雲養護学校）、和田（出雲養護学校）原（県教委特別支援教育課） 萬代（ハートピア出雲）、鍵山（こころの医療センター）、藤原（ピノキオ）、 矢田（きらり）、中村（出雲保健所）、矢田（アトリエール）、 山本（あすてっぷ）、原（島根県東部高等技術校） 事務局：大島・立花（福祉推進課）
現　状 （問題点・課題）	①障がい者の就労をめぐっては、福祉・労働・教育・医療・行政など他分野の関係機関がかかわっている。当事者にとって最善の支援を行っていくためにも、必要な支援システムを創造していくためにも、互いに顔が見える連携、協働が生まれる基盤としての関係機関ネットワークが必要である。 ②社会情勢が変化していく中で、障がい者雇用を維持推進していくには、企業側のニーズをしっかり捉え相互理解と連携の地盤づくりを進める必要がある。 ③就労継続支援事業の利用者の中にも、一般就労を希望される人がある。希望に応じたステップアップの機会を得られるよう、就職にむけた支援について事業所スタッフに意識やノウハウを広めていく必要がある。 ④就職がゴールではなく、その後長く安定して働き続けられることがさらに重要である。いざという時に有効な支援が提供できるためには、ゆるやかでも継続的なサポートの仕組みが必要である。
テーマ （ねらい）	【今年度の目標】 ①障がい者の一般就労を支援する組織横断的な事業の企画運営 ②企業とのつながり作り ③一般就労にむけた支援ノウハウの普及浸透 ④就労定着支援に関する活動
具体的方法 （評価を含む）	＊ネットワーク会議の開催 ＊事例検討 ＊ジョブガイダンス：集合研修に代わる学習機会として動画教材を制作 ＊企業情報交換会：リーフと共同開催 ＊一般就労にむけた支援ノウハウの勉強会：就労系事業所スタッフ対象 ＊はたらく仲間のコーヒータイム：毎月第３金曜日　18：00～19：00

年 間 計 画（案）

月	内　　容	備　考
4 月	4/16　はたらく仲間のコーヒータイム（毎月第 3 金曜） 4/21　第 1 回ネットワーク会議	ふじひろ珈琲 市役所　入札室
5 月		（コーヒータイム中止）
6 月	6/8 第 2 回ネットワーク会議・事例検討 動画教材制作	市役所　403 会議室
7 月		
8 月	第 3 回ネットワーク会議・事例検討	
9 月	企業情報交換会	
10 月	第 4 回ネットワーク会議・事例検討	
11 月		
12 月	第 5 回ネットワーク会議・事例検討	
1 月	一般就労にむけた支援ノウハウ勉強会	
2 月	第 5 回ネットワーク会議・事例検討	
3 月		

【資料 10】

出雲市地域生活支援拠点「ささえ愛サポート」実施状況

地域で障がい者やその家族が安心して生活するために、障がい者の地域生活支援に必要な緊急対応等ができる機能について、障がい者支援施設やグループホーム等の必要な機能を持つ主体の連携等により、障がい者の地域生活を支援する制度が令和３年４月からスタートしました。

１．登録事業所数　７２事業所（令和３年６月１日時点）

⑴事業種類別内訳

事業の種類	事業所数
短期入所	10
施設入所	4
生活介護	1
障害者支援施設	1
就労継続支援Ｂ型	3
就労継続支援Ａ型	3
就労移行	1
自立生活援助	2
自立訓練	1
指定特定相談支援	3
指定障害児相談支援	12
指定計画相談支援	15
指定一般相談支援	7
共同生活援助	8
重度訪問介護	1
計	72

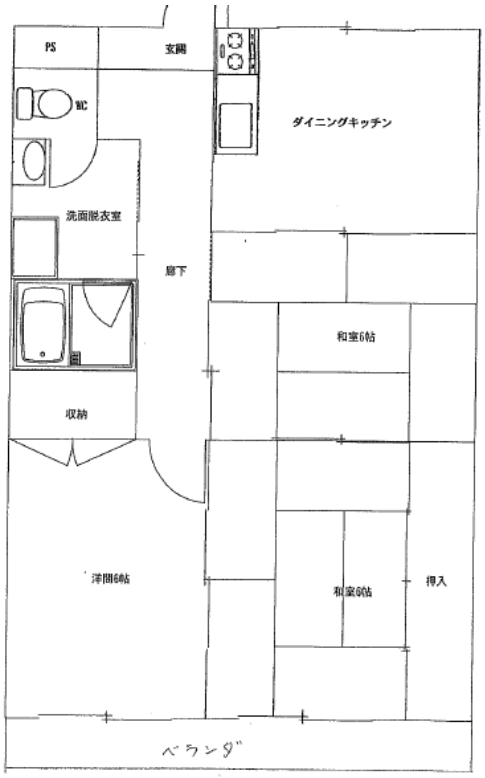
⑵機能別内訳

機能名称	事業所数
相談	32
緊急時の受け入れ及び対応	14
体験の機会及び場	40
専門的人材の確保及び養成	14
地域の体制づくり	30
計	130

※１事業所が複数の機能を有する場合がある

２．登録者数　１７名（令和３年６月１日時点）

類型	人数
身体	7
知的	5
精神	3
難病	0
障がい児	2
計	17



コーポめぐみ（出雲市塩冶町）

３．利用実績　２件（令和３年６月１日時点）

⑴緊急一時的な宿泊　１件　　5/28～5/31(4 日)

※出雲市地域生活支援拠点居室確保事業により緊急時の宿泊先を確保している。

⑵緊急短期入所　　１件　　5/ 3～